玄界灘風景街道

～邪馬台国への道・玄界ウェストコースト～

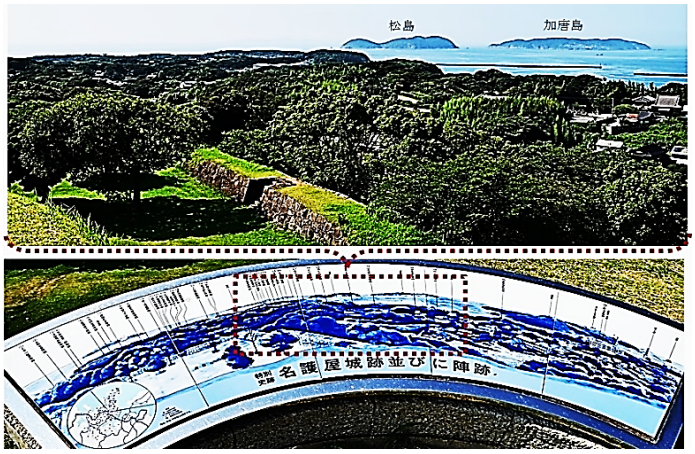
	人口	面積
福岡市	159６万人	342㎢
糸島市	9・8万人	216㎢
唐津市	11・8万人	487㎢
玄海町	0５万人	36㎢

2020/1/1 現在

日本風景街道

人のくに、美のくに九州　（日本風景街道Ｑ－７）

①　玄界ウェストコーストを行く玄界灘風景街道（生の松原）



③名護屋城天守閣跡から対馬、釜山を展望

② 立花山から見た福岡市、博多湾、糸島半島

④ 糸島半島中央部の糸島平野

目次

一 玄界ウェストコーストを行く「玄界灘風景街道」 1

1 魏志倭人伝にもとる玄界灘風景街道
2 メインとなる道路は国道２０２号と西九州自動車道
3 いざゆけ、福博、糸島、東松浦の三兄弟

二 3つの重要景観にはばたく玄界灘風景街道 3

1 大陸とのビッグな国際交流の舞台を訪ねる
2 三兄弟串刺しの「唐津街道」
3 砂浜、奇岩が語る玄界ウェストコースト

三 歴史都市の中枢福博地区をぶらつく 13

1 商人まち博多と城下町福岡をぶらつく
2 福博地区を代表する祭りや多彩なイベント
3 大都会を満喫の福博地域のホテル、土産物店、ガイド

四 古代ロマンあふれる糸島地区をたどる 19

1 卑弥呼伝説にまつわる伊都国の女王、王の墳墓をたどる
2 ホテル、飲食店、地場産品ー田園のスローライフを楽しむ
3 祭り、情報案内ー五穀豊穣を祈る「神楽」舞など

五 大陸と関わった東松浦地区を巡る 22

1 城下町唐津と名護屋の陣跡、玄海町を巡る
2 祭りー漆塗り曳山の「唐津くんち」
3 ふるさとの旅館・ホテル、地場産品、情報案内

一　玄界ウェストコーストを行く「玄界灘風景街道」

本ガイドブックは玄界灘風景街道の紹介であり、その内容は次のとおりである。まず本章では、玄界灘風景街道の骨子を概説し、二章では本風景街道全域に共通する3つの基本的な景観テーマを明らかにした。その上で、全域を3ブロックに分割し、四～六章では、前章との重複を避けつつ、それぞれのブロックの主要な風景は何か、それらをどう回遊するかなどについて解説している。

1　魏志倭人伝にもとる玄界灘風景街道

中国の歴史書に「三国志」がある。皆さんも知ってのとおりだが、その中の「魏誌倭人伝」に、3世紀の頃のわが国（倭国）の状況が紹介されている。狗邪韓国から対馬、壱岐と玄界灘を渡り、末盧国に上陸。伊都国、奴国、不弥国、投馬国などを経て耶馬台国に至る国邑のことである。その中で、当時の都とされた邪馬台国の場所は九州、近畿の両説があり、未だはっきりしない。しかし、末盧国4千余戸は東松浦半島、伊都国千余戸は糸島半島、奴国2万余戸は福岡平野の南部と多くが認めるところである。現在の自治体でいえば、佐賀県の唐津市・玄海町福岡県の糸島市、福岡市となる（図1参照）。玄界灘に面して3つの国（クニ）が互いに隣り合っていた

こうした4自治体の範囲が玄海灘風景街道であり、このことが本地域の大きな特色である。改めて地図を開くと、三郡山地、脊振山地⑤、そして東松浦の高台を背に、半島や平野が競り合うように玄界灘に突き出た一帯である。東端に福岡市和白から志賀島（しかのしま）へとトンボロ（陸繋砂州）⑥が伸び、平野に抱かれる福岡のまちがある。これに糸島半島④、⑤が隣接し、丘陵（上場台地）なす東松浦半島⑦がどんと足を踏ん張っている。そして、これらのまにまに玄界灘から博多、船越、唐津、伊万里の各湾が入り込む（図1）。このため、いずれの地にあってもきらきらと朝日に輝き、赤く染まる夕映えの感動を味わうことができる。

極寒もなければ、厳しい酷暑もない。温暖な気候の中、地域の人々は古代より山の幸に恵まれ、豊穣の海に抱かれ、充実した生活を送っている。そのため、意識調査を行うと、住み続けたいと答える人がことのほか多い。

ところで、玄界灘の「玄」は黒を意味する。青黒色の黒潮から分流し、怒涛逆巻く対馬海流に面する玄界灘は、世界的にみても有数の漁場である。タイ、イカ、アジ、サバ、ブリ、ヒラメなど。全国主要20漁港の中で取扱金額1位（2018年）の博多漁港をはじめ、唐津港、呼子港などで多くの水揚げがあり、その漁場は「玄界灘」である。古くは「玄界洋（なだ）」とも記した。あるいは、「玄界」、「玄海」、「玄洋（げんよう）」と略し、いずれもが町名、島名、団体名、屋号など、実に多くで用いられている。これは、玄界灘が地域の原風景であり、恵みであるからである。このことを念頭に本書も、同じ意味ながら、「玄界」等の呼称をその習慣のままに使い分けているので留意が必要である。

要するに、玄界灘に面する玄海国定公園に、多彩な自然のもとでの人々の暮らしがあり、玄界灘風景街道が設定されている。その中をドライブし、海、山の景色と現代のまちのにぎわいのコントラストを楽しみ、魏志倭人伝や万葉集などの古代から現代に至る出来事が語り継がれ、そうした名所旧跡を巡ることが本風景街道の真骨頂である。

2　メインとなる道路は国道202号と西九州自動車道

冒頭の魏志倭人伝では、末盧国に上陸し、「草木茂盛し、行くに前人を見ず」とある。そうした道なき道の状態から、古代における大宰府政庁への直線的な官道、秀吉や諸大名が往来した朝鮮出兵の前進基地・名護屋城への道、そして江戸時代の唐津街道などと、玄界灘地域の道路は、時代の流れの中で順次追加され、発展してきた。

それにもかかわらず、第2次世界大戦後の車社会に即した道路網の整備は、他地域に比べ遅れた状況にあった。これは、経済発展と共に交通施設の整備が、海路から空路に移るとともに、道づくりが九州の縦断・横断を主にした地域間および都市間の連結重視にシフトしたことによる。しかし、ここにきて本地域もようやくに整備が進み、図1はそのもとにおける道路網の骨格である。

福岡市の東部で南北に接する国道3号と九州自動車道がある。そこから脊振山地の山裾を国道202号とそのバイパス、そして西九州自動車道（国道497号）が東西に分岐し枝をなすが、これらが玄界灘地域の基軸であり、本風景街道を巡るメインの道路である。

因みに図中のA（福岡市博多区祇園町）とB（伊万里市南波多町）の距離は約55㎞。ドライブするだけならば約1時間半である。加えて、海に突きでた半島それぞれを県道、国道が周回し、1、2時間のドライブを楽しむことができる。

つまり、東端から西端へ向かうならば、博多湾の突端にある志賀島⑥へは、福岡市東区和白で国道3号から福岡県道59号へと分岐

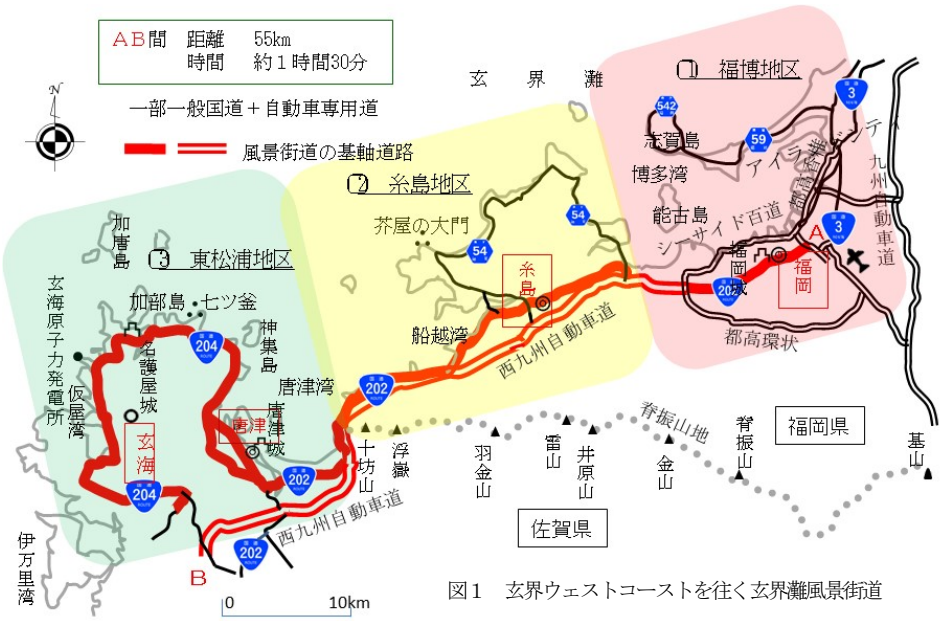


図1　玄界ウェストコーストを往く玄界灘風景街道

し、トンボロを抜け志賀島橋を渡ることとなる（図2、3）。右に玄界灘、左に博多湾を眺めてのルートであり、その上で福岡県道５４２号が島をぐるりと周回している。

志賀の浦に 漁（いさり）する海人（あま） 明け来れば
浦廻（うらみ）漕ぐらし かじの音聞こゆ　（作者不明、万葉集）

海に浮かぶ志賀島の情景が浮かぶだろう。戻って福岡市内へは、臨海部の埋め立てが進んだこともあって、国道3号、２０２号のルートに加え、人工島アイランドシティから博多港を貫く臨港道路を通り、那の津通り、よかトピア通り、そして姪浜で国道２０２号（唐津街道）にでる沿岸コースをたどることもできる（図3、４の黒点線）。あるいは、都市高速道路（香椎線および環状線）を活用すれば、それが３本目の回遊路となり、博多港を眺めつつ行く速達ルートである。

続く糸島半島地域は、単に国道２０２号または都市高速道路つながりの西九州自動車道で山裾を突っ切るメインだけでなく、今宿でそれらから分かれる県道５４号が半島を周回し、糸島市の前原または加布里でもとに戻るルートもある。この迂回ルートが糸島半島を巡る風景街道であり、荒海や岩礁だけでなく、砂浜で海水浴に興じる家族連れ、サーフィンに夢中になる若者たちがいて、楽しさに満ちあふれている（図５の黒点線）。

梓弓 引津の辺なる なのりその花 摘むまでに
逢はずあらめやも なのりその花　（柿本人麻呂、万葉集）

⑤　玄界灘地域の岸壁ともいえる脊振山地（伊都歴史博物館から）

⑥　志賀島の潮見公園からみたトンボロと玄界灘（左）、博多湾（右）

⑦　鏡山山頂から見た唐津市、東松浦半島の眺望

「なのりその花」は、海藻の一種である。皆さんが食する海藻アカモクのようなものと思えばよいが、磯の片隅に水が温むころ小さな花が咲いたようにみえ、古代では恋の歌によく用いられた。

引津湾、船越湾と海岸は西へ続き、唐津市内の唐津バイパスが終わるところで国道２０２号が分岐する。そこから、佐賀県道３４７号（旧国道２０２号で、虹の松原線）、２３号（唐津呼子線）とともに、国道２０４号が東松浦半島をぐるりと周回する（図１）。そして、伊万里市に入ったところで国道２０２号、西九州自動車道に戻る。

松浦（まつら）川　川の瀬光り鮎釣ると
立たせる妹（いも）が裳の裾濡れぬ　（大伴旅人、万葉集）

要するに、山と入江で明確にブロック分割できる玄界灘風景街道地域は、山裾を一般国道と自動車道が重なるように並行しながら貫通し、それから半島の海岸線をぐるりと周回する地方道や３桁国道が鎖状につながる。このため、迷う心配もなく元に戻ることができ、メイン道路の速達性と、地域区分ごとの回遊のための寄り道に分けて、いとも簡単に回遊できる。

ところで、世界の諸地域の風景街道をみると二通りがある。一つは、車で走りながら大自然を満喫するアメリカ型の風景街道である。キャンプを楽しみながらの自然体験型の風景街道といってよい。いま一つは、変化に富む自然に加えて、豊富な歴史遺産の街や村を巡るヨーロッパ型の風景街道である。好みや目的に応じて、町や村の景勝地、歴史街道、人の暮らし、グルメなどを挟みながら、地域文明を主にした旅を楽しむ風景街道である。

これに照らせば、玄海灘風景街道は後者である。先に述べた地形的特徴に加えて、長い歴史を刻む中で道路網が謂わあって一つ、また一つと拡充されてきた。このことから、それぞれの道や地域に多くの物語があり、前述のように、街から街へ、史跡から史跡へと訪ね行くに都合がよい道路網の形態である。

加えて、玄界灘地域は道路網だけでない。鉄道がまたよく発達し、活用できる。ＪＲ鹿児島本線、ＪＲ海の中道線、西鉄貝塚線、福岡市高速鉄道（地下鉄）およびＪＲ筑肥線がメイン道路にほぼ平行して東西に連なる。その上で、ＪＲの香椎線、福北ゆたか線、鹿児島本線、さらに都心天神から西鉄天神大牟田線、唐津市から佐賀市・伊万里市へのＪＲ唐津線などが直行し、乗り継ぎに便利な横櫛状の路線網をなしている。

こうした鉄道路線を時刻表でみれば、国道２０２号に沿う市営地下鉄空港線とＪＲ筑肥線では高頻度に直通運転され、始終端の福岡空港駅～西唐津駅間は快速で１時間１８分であり、高速道路利用の場合とほぼ同じである。主要駅（香椎／博多、天神／西新、姪浜／前原／唐津、伊万里駅）を起点に、思い思いのまち歩きやサイクリング、レンタカーによるドライブができ、路線バスを端末にした旅を楽しむことが可能である。

要するに、道路網はメイン道路から北の海側への展開で回遊路、寄り道をなす。と同時に、鉄道網がまた本風景街道地域を東西に貫く基幹交通手段として機能し、北の半島側では路線バス、南の内陸側とは鉄道および路線バスの繋がりを持つ。これらから、本地域は交通施設に恵まれ、歩くもよし、ドライブするもよしだ。車がなければ、主要鉄道駅起点の小さな旅

となる。地域文明が豊かに発達する中、一人一人の好みや旅姿で、思い、思いの風景街道を組み立て、心身を鍛える、触れ合う、学ぶなど、多彩な風景街道を繰り広げることができ、好都合である。

3　いざゆけ、福博、糸島、東松浦の三兄弟

前章までに述べたことを踏まえ、地域全体をブロックに分割すれば、玄界灘風景街道は、福博、糸島および東松浦の3地区に分けられ、それぞれに特色がある。

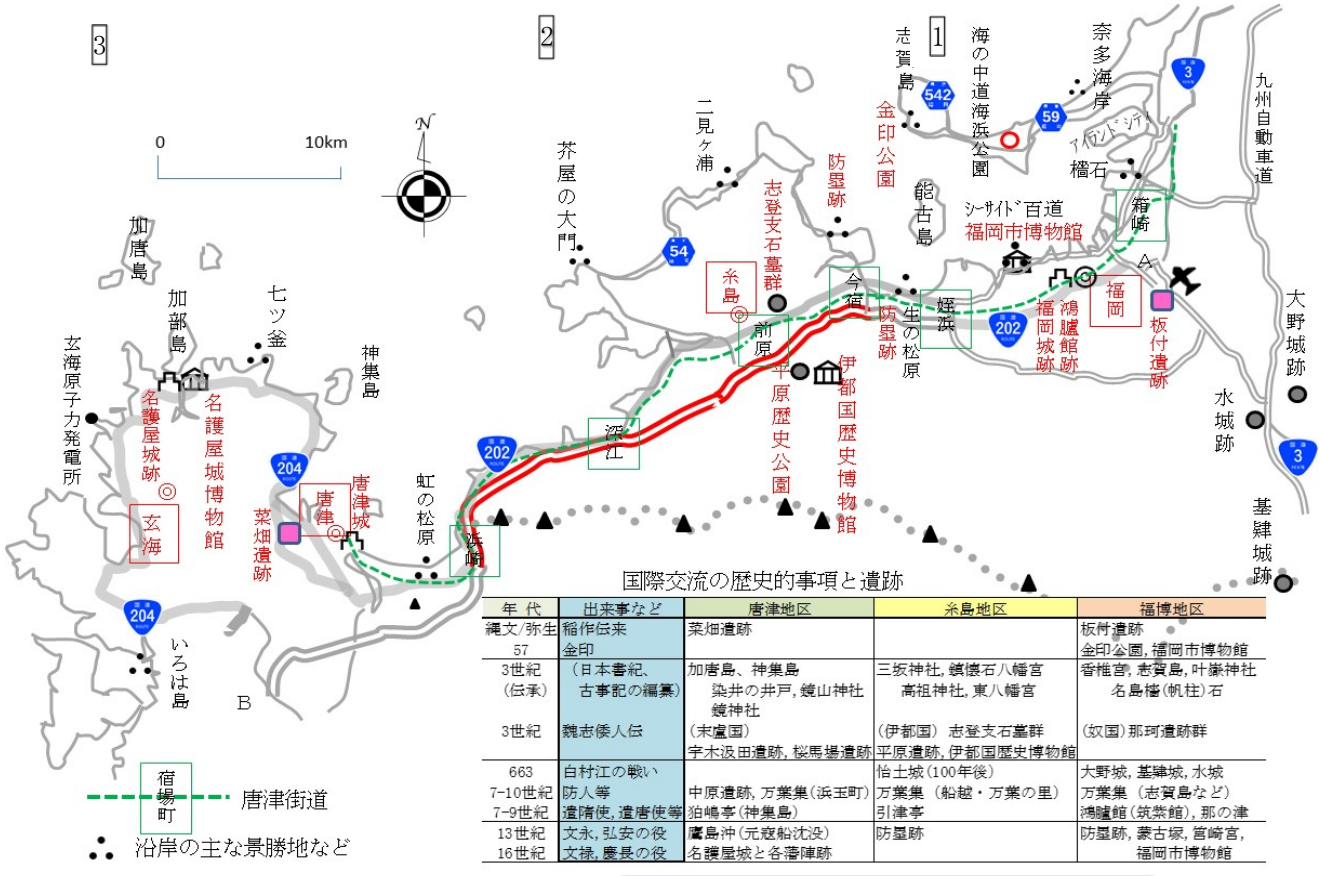
1 福岡市東端で国道3号が南北にかすめ、それ以外は国道202号がメインとなる道路沿いの区域が**福博地区**である(図3、4)。九州随一の大都市・福岡の都心部(天神、博多駅地区)から郊外へとまちが広がる中、車による回遊のみならず、鉄道とバスを活用した古代、中世、近世の史跡や遺産巡りが可能である。交通の便を生かし、現代の都心地区で、買い物に、食に、娯楽にと、大都会の醍醐味を味わいながら、都市型の風景街道が満喫できる。

2 **糸島地区**は、福岡市西区の一部と糸島市からなる(図5)。背後に脊振山地⑤を控えた半島で、にぎりこぶしをなして玄界灘に突出している。国道202号および福岡都市高速道路に繋がる西九州自動車道とJR筑肥線が半島の根本を東西に貫通。そして県道54号で半島内を周回すれば、多々ある古代ロマンとともに、豊かな自然の中、都市近郊型、週末型のドライブやサイクリング、ウォーキングを楽しむことができる。また最近では、福岡市の都心と糸島市を結んで、1万5千人を超えるシティマラソンが毎年11月頃行われ、両者の連携がより強くなった。

3 玄海町と唐津市の一帯が**東松浦地区**だが、その多くを唐津市が占める(図6)。本地域は、壱岐、対馬を経て朝鮮半島に至る島伝いのルートとして古代からの海の道があり、大陸へのゲートウエイであった。このため、唐津港・伊万里港を拠点に国際交流が進み、海、山といえども至る所に朝鮮や中国との歴史的な交わりや思い出が刻み込まれ、文明が伝えられている。その典型例が、域内各地に発達した伝統工芸の陶磁器であり、伝来後のさらなる発展でヨーロッパへの輸出の道が切り開かれ、伊万里焼と総称し一世を風靡した。同時に、豊富な海の幸、山の幸に恵まれ、それらをじっくり味わうグルメがまた楽しみである。

表紙に示す現在の人口規模からすると、福岡地区が最大で、3兄弟の長男、東松浦地区が次男、それらにはさまれた糸島地区が末っ子である。つまり、玄界灘ウェストコーストの3兄弟だが、驚くことにこの順位は、1800年前の魏志倭人伝の時代と変わりがない。偶然か、それとも自然の法則か。不思議に思うのは著者だけであろうか。

二　3つの重要景観にはばたく玄界灘風景街道



国際交流の歴史的事項と遺跡

年代	出来事など	唐津地区	糸島地区	福博地区
縄文/弥生	稲作伝来	菜畑遺跡		板付遺跡
57	金印			金印公園, 福岡市博物館
3世紀	(日本書紀、古事記の編纂)	加唐島、神集島	三坂神社, 鎮懐石八幡宮	香椎宮, 志賀島, 叶崇神社
(伝承)		染井の井戸, 鏡山神社	高祖神社, 東八幡宮	名島櫛(帆柱)石
		鏡神社		
3世紀	魏志倭人伝	(末盧国)	(伊都国) 志登支石墓群	(奴国) 那珂遺跡群
		宇木汲田遺跡, 桜馬場遺跡	平原遺跡, 伊都国歴史博物館	
663	白村江の戦い		怡土城(100年後)	大野城, 基肄城, 水城
7-10世紀	防人等	中原遺跡, 万葉集(浜玉町)	万葉集 (船越・万葉の里)	万葉集 (志賀島など)
7-9世紀	遣隋使, 遣唐使等	泊嶋亭(神集島)	引津亭	鴻臚館(筑紫館), 那の津
13世紀	文永, 弘安の役	鷹島沖(元寇船沈没)	防塁跡	防塁跡, 蒙古塚, 筥崎宮,
16世紀	文禄, 慶長の役	名護屋城と各藩陣跡		福岡市博物館

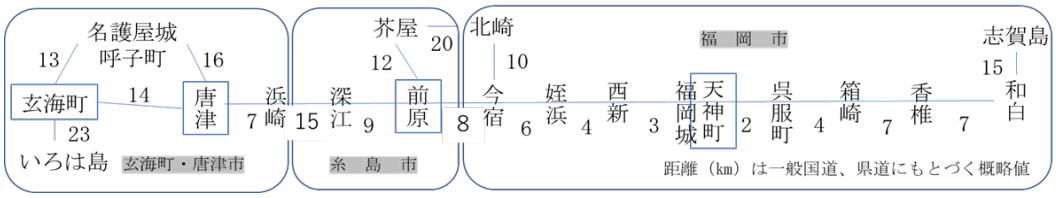


図2　玄界灘風景街道の3テーマ、国際交流の歴史、唐津街道、沿岸景勝の道を往く

-海の国際交流、唐津街道と玄海ウェストコースト-

福岡をホームベースとするプロ野球チーム・ソフトバンクホークスの応援歌「いざゆけ　若鷹軍団」の出だしは〝玄界灘の潮風に〟である。玄界灘の強い風にもまれながら、軍団の若い選手達が一丸となってたくましく羽ばたき戦い抜くとの意味が込められている。

実は、玄界灘風景街道もそれに同じである。玄界灘に面し出入りした各々の地域は、個性豊かに活動しているものの、前章において魏志倭人伝の紹介や万葉集の歌を連ねたことで分かるように、古来以来、玄界灘の潮風にもまれながらも互いがつながって長い歴史を刻んできた側面がある。その結果、本地域が一体となって意味をなす風景資源も少なくはない。むしろ、このことを踏まえると、野球のように、地域の特色を生かし個々に輝くとともに、地域がまとまり、共通のユニフォームで一丸となることにも意味があり、そのもとでの風景街道の組み立てがまた意味をなしている。

すなわち、玄界灘地域には、自然景観、古代遺跡、歴史、食、さらには暮らしなどと様々な資源があり、多彩で、どれ一つとっても飽きない風景上のテーマがある。しかし、これらを地域別、テーマ別で細切れに把握することは、玄界灘地域が持つ本質を見逃し、あるいは見誤る恐れがある。この観点で、玄界灘風景街道の包括テーマを考えると、有史以前からの地域創成のドラマをもつ**玄海ウェストコースト**全域に広がる我らが風景街道は

「魏志倭人伝に始まる国際交流の舞台に思いをはせ、
秀吉も通った名護屋城への歴史街道を訪ね、
白砂青松が織りなす玄界灘を眺めよ」　である。

1　大陸とのビッグな国際交流の舞台を訪ねる

現代は、我が国全体の国際化が急速に進みつつあるが、玄界灘地域に限れば古代からの長い期間に渡る国際交流の積み重ねがある。アジア大陸に近接する地理的関係から、とりわけ中国、朝鮮半島との交流の窓口として重責を果たしてきた大きな歴史がある。そこで、地域で共通かつ重要な7項目を取り上げ、あとは皆さんそれぞれが関心ある情報を加えてマイ風景街道にすることを期待する。

(1) 神功皇后の伝説―九州にあって玄界灘地域は、日向（ひゅうが）地域（宮崎県）に劣らぬほどに多くの神話伝説が残されている。とりわけ日本書紀、古事記における神功皇后の伝説が多く語られ、これにかかわる神社として、福岡市の香椎宮⑧や筥崎宮、糸島市の鎮懐石八幡宮、唐津市の鏡山神社⑨などが点在する。鎮懐石（ちんかいせき）とは聞きなれないが、神功皇后が安産を祈って巻いた石のことで、子授け、安産を祈って地域の人々から厚くあがめられるなど、暮らしの中に溶け込んでいる。また、神功皇后の三韓出兵のさいの船の帆柱が化石化したとの説がある檣（ほばしら）石が名島海岸（福岡市東区名島）に横たわっている。見た目にどうしてここまで柱そのものかと驚くほどだが、地質からみれば約３７００年前の木の化石であり、そのこと自体一見の価値（国指定天然記念物）がある。

⑨　鏡山の山頂にある鏡山神社（唐津市）

⑧　独特の香椎造をなす香椎宮（福岡市東区）

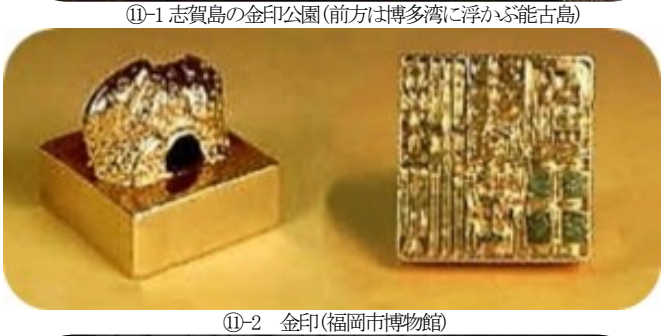
(2) 稲作の伝来―縄文、弥生の石器時代に、中国大陸あるいは朝鮮半島から稲作が伝来した。そのルートは、東シナ海、対馬海流などの諸説があるが、本地域で水田稲作の遺跡として、菜畑遺跡（唐津市）や板付遺跡（福岡市博多区）⑩などが発見されている。菜畑遺跡は縄文時代晩期の水田跡であり、わが国最古といわれている。板付遺跡では湿地でなく標高7～9ｍの高台における水田（弥生期早期？）で、畦で区画割りされ、灌漑施設を備えた本格的なものである。これらから、玄界灘地域がわが国の米を主食とする食文化の原点をなすことは明らかであろう。

⑩　水田稲作伝来の板付遺跡（環濠集落）

(3) 金印―江戸時代、志賀島で農夫が水田を耕作中に偶然発見した金印（国宝）⑪は、わが国の歴史の上できわめて重要なものであった。後漢の光武帝からＡＤ５７年に奴国に授けられたもので、当時から玄界灘地域こそがアジアへのゲートウェイであった証である。金印には「漢委奴国王」の刻みがあり、福岡市博物館に所蔵展示されているが、２千年近く過ぎていまも変わらぬ黄金の輝きを放っている。

(4) 鴻臚館―今一つは、１９８７年、福岡城跡と同じ場所に、飛鳥奈良時代の筑紫館（つくしのむろつみ）が見つかり、平安時代に鴻臚館（こうろかん）と称した遺跡が発掘されたことである。一時期黄

⑪-1 志賀島の金印公園（前方は博多湾に浮かぶ能古島）



⑪-2　金印（福岡市博物館）

⑫　鴻臚館の一部復元モデル（中央区）

⑬　延長1.2㎞ に及び高さ 9mの水城（太宰府市）

金時代を築いたプロ野球西鉄ライオンズの本拠地・平和台野球場における発掘だが、場所が場所であったことや他に例のない発見であったせいか、世紀の大発見として当時のメディアは連日このニュースに沸き立ち、多くの人々が見学に訪れた。その遺構は唐・新羅・渤海の使節を迎える迎賓館兼宿泊所⑫である。出土品から、中国、朝鮮、西アジアの多様な文物が伝えられたシルクロードの中継点であったことが明らかだが、言葉、空間、時の壁をどうのり越えての外交・交易であったのか、発掘跡の復元模型を見ながら祖先の情熱と努力、その視野の広さに敬服させられる。

前後するが、海路を含めさらに多くの交流の道がある。魏志倭人伝の道に加えて、那の津（博多津）を経由し、糸島半島、東松浦半島を道標に玄界灘を往来した遣隋使・遣唐使の海の道、博多に居留地「唐坊」を置いた唐・宋商人活躍の道がある。「虚しく往きて実ちて帰る」（空海）と僧侶たちが伝えた仏教伝来の道があり、博多織や陶磁器など地場産業にまで育てあげられた工芸伝来の道がある。いずれもが大陸と本地域との往来と文明の伝搬の中で人々の暮らしの礎を築いたものである。

これらすべての道が集積する玄界灘沿岸域は、単なる歴史の宝庫にとどまらない。他で例を見ないわが国の文明史を物語るものであり、先導するものであった。

（5）古代の国防と防人、万葉集―とはいえ、いいことばかりでない。沿岸の最前線ゆえに隣国の紛争に巻き込まれた苦難の道があった。唐・新羅と百済の戦いで、わが国は要請を受けて百済に援軍を送ったものの負け戦となった（663年）。そこで、脊振山地の基山に基肄（きい）城（665年）を、大宰府政庁の北に大野城（665年）を築造し、博多湾を望む正面に水城（みずき。国指定特別史跡）を築いた。

写真⑬に見るように、水城は全長1・2㎞、基底幅80mに及ぶ2段式の大堤防である。前面および背面に水を貯えて防備を固めたが、今も水田に挟まれ、それを堀にみたてれば、当時の姿を思い描くことができる。

よほど怖かったのか、768年になって糸島市の高祖山の西斜面にも広大な怡土城（四章1節参照）を築いた。基肄城などの朝鮮式（攻撃相手に場内を見せない構造）に対し、怡土城は中国式で、城内が見通せ、攻撃的性質が強い城であった。

加えて、防人（さきもり）がまた全国、とりわけ当初は東国から、後に九州各地から集められ防備についた。その時の彼らの思いをつづった歌が万葉集に多く収録されている。

水鳥の立ちの急ぎに　父母に物言（ものは）ず来（け）にて　今ぞ悔しき　（有度部牛麻呂）

わが妻は　いたく恋ひらし　飲む水に　影さへ見えて　世に忘られず　（若倭部身麻呂）

出立の慌ただしさ、妻への恋情などが詠われているが、1300年以上も前、しかも往復の食糧・装備は自弁で全国から馳せた防人たちの望郷の念や人情がひしひしと伝わるであろう。他にも万葉の里となった志賀島、糸島、唐津などと至るところに句碑があり、現地を眺めつつ当時の人々の思いをかみしめることができる。

（6）文永、弘安の役と名護屋城―鎌倉時代の文永、弘安の役では、蒙古軍が博多湾、糸島半島、伊万里湾などに襲来した。これに対しては、暴風雨（神風）による自滅・撤退説があるが、同時に我が国の御家人たちが必死に戦い、蒙古軍を退散させたことも事実である。

早良区西新の丘陵地・祖原（麁原）山での戦いや、本風景街道に隣りあう松浦市・鷹島での激戦などが今なお語り継がれている。そして、このとき築造されたのが元寇防塁であり、いまも博多湾沿いの東西各地に残る。東区筥松（碑のみ）、中央区地行、早良区西新、早良区百道、西区生の松原⑭、今宿、今津と。当然だが、これらを結べば鎌倉時代の海岸線が浮かびあがり、旅も当時の海辺をたどる道になる。

（7）文禄・慶長の役と名護屋城―いま一つ忘れられないものは、東松浦半島突端の名護屋城跡（唐津市）⑮である。豊臣秀吉が朝鮮への出兵（文禄・慶長の役）に際し築城した城跡で、周辺一帯に全国から集まった諸大名の陣営が築かれ、20万もの兵士達が集結した。現在の唐津市の人口の1・6倍で、突然の軍事都市の出現に地元の人々はさぞや驚いたことだろう。この時の城跡や陣跡はいまや国の特別史跡である。

韓の空の　見はらしどころ　ここにして

太閤はありき　海山の上に　（北原白秋）

城跡に隣接する佐賀県立名護屋城博物館に、城や各大名の陣営の模型⑲、倭船や朝鮮の亀甲船の模型を含め多くの資料が展示されている。中には日韓双方の歴史教科書の展示があり、現代の複雑な日韓関係に思いが及ぶ機会ともなる。日韓関係を直視しつつじっくり見聞すれば、博物館の見学だけでも数時間を要する。海からの国際紛争の最前線に立たされてきた九州北部の重要さと、それを演じた役割の大きさがいまさらのように浮かび上がるだろう。

以上の他にも、戦前における我が国の海外進出、第2次世界大戦後の引揚げ者の受け入れ、冷戦時代の鉄のカーテン、朝鮮戦争時の竹のカーテンによる悲劇などの忘れられない苦難があった。これらを含め、本風景街道地域に刻まれた国際交流の痕跡を訪ねることは、時空を貫いて我が国に重大な出来事がもたらされた跡をなぞることである。交通手段が海の時代に、国際交流に果敢に挑み、文明を切り開いた祖先の英知と努力、その一方での苦難をたどる風景街道が玄海灘地域にある。

2　三兄弟串刺しの「唐津街道」

二つ目のテーマは「唐津街道」（図3～6の緑線）である。唐津街道は江戸時代の九州北部における脇街道の1つで、起点は北九州市の大里、小倉、若松などであり、途中の赤間宿までは枝分かれし複雑であった。しかし、玄界灘風景街道の区域に限れば、福岡市東区から唐津市まで一本道であり、それから域内の半島方面や内陸への山道、峠越えを含め、大小の脇道が交差していた。地域の人々の暮らしや交易・交流はむろんのこと、福岡藩や唐津藩などの参勤交代に活用され、福岡から長崎の警備に向かう道でもあった。これらから、多くの重要な歴史を見続けた唐津街道は、単なる脇街道ではなく、それ以上のものと指摘できる。以下は、その唐津街道を東から西へとたどりながら、沿道状況を概説するものである。

★香椎から箱崎へ―香椎宮、筥崎宮、崇福寺など

宗像方面から県道504号を南下すると、新宮町原上ないし福岡市東区下原付近で国道3号と交わる。大雑把にいえば、この付近から唐津街道は福岡市内に入り、さらに南下すれば香椎を経て、多々良川を渡ったところで県道21号に突き当たる。そして、なおも進むと箱崎のまちとなり、御笠川に達する（図3、4）。

さて、福岡市への入り口「下原」から車で15分ほど住宅街を走り抜けると香椎宮（写真⑧）に至る。駐車場に車を置いて少し歩くと御神木綾杉があり、その傍ら

⑮　朝鮮出兵時の前進基地・名護屋城跡（唐津市肥前町）

⑭　生の松原における元寇防塁の復元（福岡市西区）

⑯　西戸崎海岸から見た万葉の世界・志賀島（福岡市東区）

図3　博多湾の大堤防のように伸びるトンボロの志賀島（福岡地区1）

に、新婚旅行で立ち寄った夏目漱石の俳句

秋立つや　千早ぶる世の　杉ありて

がある。仲哀天皇・神功皇后を祀る本殿⑧はその横である。朱塗りで香椎づくりと呼ばれ、他に類を見ない独特の建築様式（１８０１年の再建、国重文）で、必見の価値がある。

また、本殿から３００ｍほど離れたところに、「老いの水」とも呼ばれる不老水の井戸（名水百選の一つ）がある。武内宿禰（５代にわたる天皇に仕えた伝説上の忠臣）がこれを飲み、３００才の長寿を全うしたとの伝説があり、いまも水汲みする人は絶えない。

香椎宮前の参道（県道２４号）を「勅使道」と呼ぶ。見事な楠木の並木道で、それを進みＪＲ鹿児島本線の踏切を渡ったところで再び唐津街道（県道５０４号）に戻るが、さらに進むと多々良川の大橋である（図3）。

その昔、この付近は海岸線であった。その多々良浜で、九州に落ち延びた足利尊氏勢と、宮方についた肥後国の菊池勢とが激突。尊氏勢が勝利して都へと攻め上がり室町幕府開設のきっかけを掴んだ古戦場である。これを通り過ぎ、県道２１号をひたすら、といっても車で数分進むと筥崎宮にたどり着く。

筥崎宮（写真⑰）は、石清水、宇佐とともに日本三大八幡宮の一つである。先に述べた元寇の襲来に際し、亀山上皇から賜ったとされる戦勝祈願の扁額「敵国降伏」が楼門（１５９４年建立、国重文）に架かる。本殿は９２１年の創建で、現在のものは１５４６年の再建（国重文）である。また、亀山上皇の銅像そのものは東公園内にあるが、珍しいことに、その原型の木像が破棄されず残され、筥崎宮楼門前方の横に安置されている。

筥崎宮から歩いて行ける距離に福岡県庁、東公園、九州大学病院。そして、その西よりが崇福寺である。参道に入って山門を見上げると、寺にしては変わった門であることに気づくだろう。二層の造りで本瓦葺の切妻造だが、これは福岡城本丸の表御門を陸軍から払い下げを受けて移築したものである（１９１８）。隣接して、黒田家の墓所があり、その中に２０１４年のＮＨＫ大河ドラマで名を馳せた軍師（藩祖）黒田官兵衛（如水）と初代藩主黒田長政親子の墓がある。

おもひおく　言の葉なくて　つひに行く　道はまよはじ　なるにまかせて

戦国の世を駆け抜けた軍師・官兵衛の辞世の句である。

崇福寺前の道をつたい御笠川にでると、川沿いの都市高速道の下、国道3号の歩道上に一つの塚が目に入る。これは道路整備に伴い近くから移築したものだが、無実の人に罪をかぶせる意味の「濡れ衣を着せる」の由来といわれる濡衣塚である。お参りをし、うっかり濡れ衣を着せられぬことを祈るとよい。

★中世の記憶を繋ぐ博多のまち―大閤の町割り

塚の前の石堂橋を渡ると古くからの博多のまちである。御笠川に沿うことから、かつてのまちの縁辺部であり、寺が集中している。博多駅前1丁目から中呉服町まで、ざっとみただけでも約２０が数え

⑰筥崎宮 - 楼門と応神天皇出産時の胞衣箱を納めたとされる筥松

⑱新都市・シーサイド百道地区（福岡市早良区）

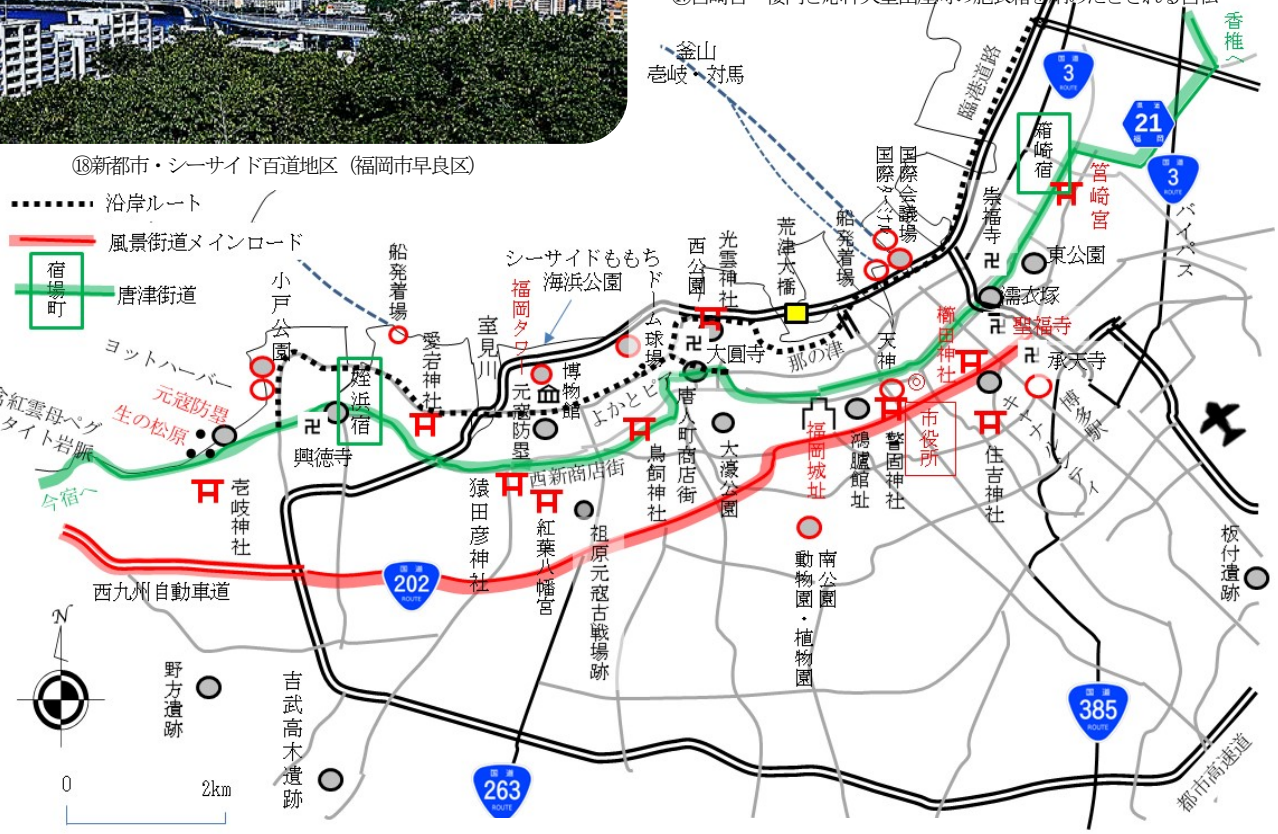


図４　活力ある福岡市の市街地を満喫する（福博地区２）

られ、その一つに日本最初の本格的な禅寺・聖福寺㉝がある。南宋から帰国した臨済宗の開祖栄西（ようさい）が開山だが、山門に目を凝らすと、後鳥羽上皇から賜った「扶桑最初禅窟」の額がかかっている。扶桑（ふそう）とは、中国の伝説で東のはてにある巨大な神木のことであり、転じて日本の異名に用いられている。

さらに、唐津街道の道筋をたどれば、ここから先は市道である。秀吉の博多の町割に沿って中呉服町、網場町と進むと現在の博多座・博多リバレインに突きあたる（図８）。そこを右折し昭和通りにでて博多川を渡ると、中洲そして那珂川に至る。江戸時代、中洲の北側は長崎警護の船を係留する御船入があったところで、南側は畑作地であったが、明治に入って開発が進み、現在のオフィス街や繁華街へと変身した。

御笠川と那珂川の２つの川の間は約１㎞。歩いても１５分ほどの距離だが、この間が古い博多のまちである。しかし、先の太平洋戦争で御笠川沿いの一部は残ったものの、２３９機ともいわれるおびただしい数のＢ２９爆撃機により襲撃を受け、まちの大半が焼失した。無念の一言だが、その復興に土地区画整理事業が採用され、域内における多くの市民や神社仏閣が他に移ることなく残り、あるいは一部の町筋や路地などが残った。より大切なことは、道を挟む向こう三軒両隣的な地域区分のもとでのいわゆる太閤（豊臣秀吉）の町割り（背割り方式。三章１節参照）が、暮らしの習慣として、あるいは人々の絆として受け継がれ、そのもとでの博多祇園山笠（世界無形文化遺産）などの復活があったことである。

★福岡城とその城下町・福岡

那珂川より西側はかつての福岡の城下町。入り口の西中島橋を渡った川岸に枡形門があった。橋詰に方形の広場を設け、警備を固める形式の門である。この時の状況を仙厓和尚（江戸時代後期の聖福寺住職）が絵に残し、その写しが現在の橋の中央における休憩椅子に貼り付けられている。

枡形門をくぐる思いで絵を眺めつつ橋を渡り、現在の昭和通りを進むと、以後は唐津街道の道筋（六町筋と称した）で、それに沿って天神、舞鶴、赤坂、大手門といった名を持つ地区が繋がっていた。これらを過ぎたところに唐津街道の中心・福岡城跡（舞鶴公園）が忽然と姿をみせる。

福岡城㊴は、黒田官兵衛、長政親子が築いた城である。戦国時代の大名小早川秀秋（豊臣秀吉の養子で、後に小早川隆景の養子となった）が備前国に転封となった後、関ヶ原の戦いで功があった黒田氏が藩主となり豊前国中津から移ってきた。しかし、入城した名島城（現在の東区名島公園とその周辺）は手狭で

⑲　荒津大橋

⑳　博多漁港

㉑　幣の浜（糸島市志摩）

図５　糸島地区の古代ロマンと沿岸景勝の道

あった。このため、当時の警固村福崎に新たな城郭を築いたが、城は堀で囲まれ、北側に２つの橋（上の御橋、下の御橋）、南側に追い廻し門があるのみで、堅牢な構えである。城下町はその外側にあり、出身地の備前国・邑久郡福岡に由来して「福岡」と名付けた。なお、城の天守閣は、途中まで作ったものの幕府に遠慮して中止したのか、作り上げたのかは未だ明らかでない。

２つのまち、博多（商人町）と福岡（城下町）は、隣り合せにそれぞれ発展したが、明治になって統合され、市制が施行された（１８７６）。その際、市名を博多とするか福岡とするかで意見が分かれ、激しい対立があったものの、最終的に議長の１票を加えて「福岡市」で決着が図られた。また、妥協の意味があるのか、同じ年に開通した九州鉄道の駅名は博多駅である。

博多とするか福岡とするかはあらゆる面で今も続く。同じ博多区にありながら、博多駅、博多港がある一方で、博多区に福岡空港があり、東区に九州自動車道の福岡ＩＣがある。あるいは、市域全体が博多湾に面し、辞令一つで福岡市に転勤して来る単身赴任者たちを「博チョン」族と呼び、祭りや食品名に博多を付すことが多い。とはいえ、当時の人口５万は、現在（２０２０年）では１６０万人である。一面で競いながらも、福岡、博多の両地区を核に福岡市という広大なまちが形成され、まとまりをなす。

★ 西新まちから姪浜宿へ

福岡の西よりの西新（福岡市早良区）以西では、唐津街道は概ね旧来の一般国道２０２号に沿っているが、バイパス等の整備があったため、正確にはそれらから一つ内陸より、または海よりとジグザグにクロスする旧道が唐津街道である。現在では各々の宿場町から発展したまちなか商店街を形成するが、それらの位置は図４～６に示すとおりで、姪浜、今宿、前原、深江、浜崎と、ほぼ同じような間隔で並ぶ。

西新商店街（福岡市の西の副都心）を抜け、紅葉八幡宮、猿田彦神社（早良区藤崎）、金屑川の飛石橋、そして室見川の室見橋を渡ると愛宕神社がある（図４）。つまり、室見橋たもとすぐの坂道（車の通行可で、愛宕浜側からも登れる）、または階段を登ると鷺尾山と呼ぶ小山の頂上に至る。かつて、鎌倉、室町時代に九州を統治するために九州探題が置かれたところである。しかし、島津氏や大友氏はこれに従わず、また、中国地方の大内氏が進出するなどで形骸化し、江戸時代には日田の西国郡代に取って変わられた。

愛宕山北側の海辺は、大正、昭和時代に石炭の採掘が活発に行われたところである。しかし、いまは閉山し、１９９０年代以降は沿岸部（百道浜、愛宕浜）の埋立てが行われ、シーサイドももち地区⑱、愛宕浜・豊浜地区のまちづくりが推進された。愛宕神社の境内から眺めれば、かつての面影は完全に払拭され、近代的な新都市と博多湾が一望でき、隔世の感がある。

一方、南西側の麓は古い町である。間口の狭い木造建物および寺や神社、職人の店が密集し、江戸時代の宿場町「姪浜千軒」の面影を今に伝えている。

要するに、愛宕の小山があり、その上に神社や城跡。そして麓では片や遺跡を抱く古いまち、片や現代の新都市、それらの先に海（博多湾）があるというまちの構図である。規模、時代こそ異なるが、形の上ではアクロポリスのふもとで地中海に面する古代ギリシャの都市国家の構図とどことなく似ているといえよう。

★ 今宿から前原宿、深江宿へ

命かな　生の松原　いきてなほ　心つくしの　人のはて見む　（菅原道真）。

姪浜から今宿への途中に「生（いき）の松原」がある。今宿湾に面し約２㎞にわたる白砂青松の松原が続き、その中に九州大学演習林、海水浴場、公園が含まれている。海辺には、元寇の役の際に築いた防塁の実物大復元模型⑭がある。また、レプリカだが、戦いの様子を描いた肥後の御家人竹崎季長（たけざきすえなが）の「蒙古襲来絵詞」を写した焼き物が飾られている。元軍の発達した武器「てつはう」（鉄火砲）や毒矢をかいくぐり、果敢に挑んだ我が国の武士団の絵である。

このあたりまでくると唐津街道は海辺にでる。見晴らしが良く①、博多湾に浮かぶ能古島や糸島半島を眺めつつ進むと今宿（いまじゅく）に至る。今宿はさほど大きくはないが、唐津街道から糸島半島の桜井、北崎方面への分岐点㉒-１に発達したまちで、元寇防塁跡、灯台代わりになったであろう二宮神社の常夜燈㉒-１、さらに近くに多くの古墳などがあり、歴史があるまちであった（図５）。

続いて周船寺と波多江。これらは平野のど真ん中にしてはどうしてと思える地名だが、太古の昔、海が入り込み、それに面したことの証である。対岸に相当する位置に今津、元浜、泊の地名が並び、このことと合わせると納得であろう（四章１節）。

それらを過ぎたところが筑前国あるいは福岡藩の西端のまちの前原（まえばる）宿㉒で、関番所が置かれていた。脇本陣・綿屋、商家の古い看板、加布里・唐津と芥屋大門参道・船越港道の追分石など、いまなお往時をしのぶことができる。

次は深江宿。地名は深い入り江に由来するが、唐津藩、天領を経て、享保２年（１７１７）から明治までは豊前中津藩の飛び地であった。街道の突き当たりに正覚寺があり、そこを右折すると延寿院境内に境界石がある。

★ 浜崎宿から虹ノ松原、鏡山、唐津へ

深江の西は福岡県と佐賀県の県境で、「従是東筑前国」と刻まれた境石がある。これを後にすると浜崎宿となり、虹の松原㉔に達するが、西の境石には「従是東対馬領」と刻まれ、唐津市浜玉町浜崎は対馬藩領の飛び地であった地区である。

結局、唐津街道の福岡～唐津間は、福岡藩と唐津藩が両サイドにあり、その間に幕府領、中津藩、対馬藩の飛地が入れこのように挟まれていた。しかし、現代はいずれもＪＲ筑肥線沿線

㉒-1 唐津街道の今宿における追分石と、博多湾を照らす二宮神社の常夜燈

である。福岡市への通勤圏であり、新たな流入人口も多い。これらから、過去のことは風化し、各藩への帰属意識はない。

続く虹の松原㉔は、玄界灘風景の重要資源で、日本三大松原の一つである。本風景街道の区域にある各地の松林の中で最も規模が大きく、かつ保存状態が良い。その松林の隙間から見え隠れするのが、神功皇后が鏡を祀ったことに由来する名の鏡山⑨である。花崗岩の上に溶岩（玄武岩質）が乗り、台形なす山で、頂上がどこか分かりにくいが、標高は２８４ｍであり、車で登坂できる。

鏡山の山頂から、写真⑦に示すように虹ノ松原や唐津湾一帯が眺望でき、その一隅に

遠つ人松浦佐用姫夫恋に領巾振りしより負へる山の名

（万葉集、山上憶良の唄の影響を受けての大伴旅人の作と考えられている）

の碑がある。これから明らかなように、鏡山は別名・領布振山とも呼ばれる。これは、新羅に出陣する大伴狭手彦（おおとものさてひこ）の船に、恋仲の佐用姫（豪族の娘）が山頂から領布（ひれ）を振り、飛び降りて呼子まで追いかけ、泣き続けて石（望夫石）になったとの伝説によるものである。また、唐津市呼子町加部島の田島神社境内の佐用姫神社に祀られているものが望夫石と言い伝えられている。

唐津街道の終点は唐津城とその城下町だが、当時は松浦川が唐津湾に注ぎ込むところに渡し場があり、そこから船で対岸に渡らなければならなかった（図６で、緑線が途切れたところ）。

そして、唐津城㉓（舞鶴城とも呼ぶ）。その場所は唐津湾に突き出た満島（まんとう）山である。これは平山城で、豊臣秀吉の家臣寺沢広高が、廃城となった名護屋城の資材を利用して築いたものである。九州各藩が協力し、その周りに多くの堀（柳川堀、佐賀堀、肥後堀、薩摩堀など）が建設され、守りを固めた。

寺沢氏は、関ヶ原の戦いでは東軍につき、天草一郡を加増された外様大名である。しかし、２代目藩主の時代、島原に対する圧政が原因して島原・天草の乱を招いたことから、乱後に天草は没収され、藩主も自殺したことから改易となった。その後の唐津藩は、譜代大名として大久保、松平、土井、水野と入れ替わり、明治維新のときは小笠原氏であった。このため、市民に聞けば、小笠原氏が最もなじみ深いとのことである。

㉒-2 福岡藩西端の前原宿（糸島市前原）

以上、玄界灘風景街道の範囲における唐津街道とその沿道の概要を述べた。これらはごく一部に過ぎない。丁寧に巡れば、汲めど尽きないさまざまな出来事や歴史、多彩な風習や祭り、信仰、暮らしなどに遭遇する。その意味で、唐津街道を訪ね、それらを掘り起こし、あるいは解き明かすことも本風景街道の醍醐味である。事実、糸島地区では、「糸島魅力みつけ隊」や「歩く唐津街道の旅」などの市民の集まりがあり、同趣旨の活動が活発に行われている。

３　砂浜、奇岩が物語る玄界ウェストコースト

玄界灘風景街道の全域で３本目の資源なす矢は何かといえば、それは端から端まで繋がる海岸線の風景である（図２）。防人や遣唐使、蒙古軍も眺めたであろうが、志賀島のトンボロ、可也山や火山から眺める糸島半島の海岸線、鏡山や名護屋城跡から眺望する東松浦半島の海岸線は、日本の渚百選に４か所（海の中道、二見が浦、虹の松原、波戸岬海岸）が選ばれるほどに綺麗な砂浜が発達している。その一方で、奇岩あり、海食洞ありで、大いに変化に富む。当然だが、これらは地質・地形にもとり、福岡市およびその周辺は三郡変成岩類に花崗岩類が割り込み、脊振山地、糸島半島、志賀島、玄界島などが形成されている。また、東松浦半島は、石炭層と火山活動で堆積した玄武岩主体の地質であり、入り組んだ海岸だが、丘陵の所々に粘土層があり、一部に地すべりを起こしやすいところもある。

㉓　唐津城（唐津市東城内）

★トンボロの海の中道と海人族のメッカ志賀島（しかのしま）

図３に示す海の中道のドライブをイメージしながら紹介すれば、先ず東端の海の中道を志賀島へと進むと野鳥の宝庫・和白干潟がある。それを過ぎると三苫、奈多、西戸崎（さいとざき）と、白砂清松からなる海岸線が美しい弧を描いている（図３）。

途中には、国営「海の中道海浜公園」があり、これは米軍博多基地返還後の広大な敷地を公園にしたもので、自然と海、野外施設からなる。その先が松林に囲まれ、ＪＲ香椎線（愛称・海の中道線）の終着駅である西戸崎（さいとざき）・大岳の住宅地。これを過ぎるとトンボロ固有の砂浜⑥を両サイドの車窓に見ることができ、志賀島橋を渡れば、突端の志賀島に至る。

トンボロには２つのタイプがある。一つは、世界遺産モンサンミシェル㈫や、海割れで有名な珍島（チンド。韓国）のように、潮の満ち引きでトンボロが浮かび上がり、海中に沈む形式である。他方、北海道の函館市は陸繋砂州が大きく発達し、その上にまちが形成されたタイプである。

志賀島はこれら両者の中間タイプで、トンボロとして最も美しい姿を成す状態である。これが今後どう変化するかを想像しつつ志賀島の潮見公園から眺めれば（写真⑥、⑯）、自然には逆らえない雄大な景色と、それが作り出す弧状の優美な造形に今更のように魅せられる。

大君の遠の朝廷とあり通ふ　島門を見れば神代し思ほゆ　（柿本人麻呂）

志賀島は周囲１１㎞の島。博多湾の入り口に能古島と合わせて門をなすように存在し、前述はその見立てによる歌だが、元寇の役に際し辛酸をなめた。文永の役（１２７４）では、撤退の際捕虜となった多数の蒙古兵が処刑され、後世になって島内に蒙古塚が建立された。弘安の役では、防塁を避けて蒙古軍に占領され、これを日本軍は陸路から総攻撃し勝利したが、その祈祷を行った場所が火炎塚である。

こうした苦難を乗り越え、いまでは志賀島の博多湾側は、ゆったりと進む王者のようなクルーズ船やコンテナ船、波を切る高速船が港に出入りする風景を見ることができ、志賀島漁港、金印公園⑪、蒙古塚へと進めば、北端（勝浦）の国民休暇村に達する。そこからは外海、つまり玄界灘を眺めつつ周り込むことになるが、赤瀬、黒瀬、白瀬といったダイビングスポットが続く。厳しい波しぶきも夏は若者天国、冬は荒れ狂う海原。そして、ぐるりと一周し、もとの志賀島橋近くまで戻ると、阿曇氏の後裔が代々社主を務め、全国綿津見（海神）神社の総本宮といわれる「志賀海神社」がある。

阿曇族は、近くの宗像族などとともに、古代日本を代表する海人族の一つである。海神・綿津見命を祖とし、筑前国糟屋郡阿曇郷（福岡市東部）が発祥の地といわれている。あるいは、揚子江河口の呉の太伯の家臣だったとの説もあるが定かでない。いずれにしても、祖先が神功皇后の新羅出兵の水先案内を務めたと伝承されているが、古代に大陸との交易にかかわったことは確かであろう。

また、安曇族は志賀島だけでなく全国に展開している。阿曇、安曇、厚見、厚海、渥美、阿積、泉、熱海、飽海などや、滋賀、志賀といった地名を持つところが阿曇族に関わる。中には川を伝い山奥の安曇野（全国に散ったのちの一族の本拠地）にも住む。綿津見命を祀り、穂高神社の例大祭（９月２７日）では、山奥ながら船形の山車が登場する。これらを踏まえると、志賀島を訪れることは海人族阿曇のルーツ巡りの一環ともなる。

旅の話題にと追記すれば、志賀海神社の祭りに際し国歌と同じ詞が語られることである。いうまでもなく国歌は明治時代に定められたが、１０世紀に編纂の古今和歌集の歌からとったとされている。しかし、出だしの「君が代は」は、古今和歌集では「わが君は」である。これに対し、志賀海神社の山誉め祭りは、志賀三山に山の豊猟（鹿狩り）や海の豊漁（タイ釣り）とそれらの安全を祈願し、感謝する春・秋の祭りだが、社人（神社に奉仕する古老のこと）がとなえる掛け合いの中でも、「君が代は 千代に八千代に さざれいしの いわおとなりて こけのむすまで」と唱えるくだりがある。古今和歌集からのこうした取り込みは古くから物語や長唄、謡曲、祭礼歌などにも見受けられるが、志賀海神社の歌もそうしたものの一つか、それとも他にさらなる意味があるのかは定かでない。

要するに、トンボロ、安曇族、君が代は、志賀島の三つの関心事であり、このことを思い出しつつ島を巡ることも一興であろう。

★都市のウォーターフロントを往くーアイランドシティ、シーサイドもち、小戸ヨットハーバー海の中道から福岡の街へのルートは、前述の和白からのそれにとどまらない。先に述べるように、半島の根元に近い雁ノ巣レクリエーションセンターから海の中道大橋（アーチ

㉔　初代唐津藩主が植えた虹ノ松原（唐津市）

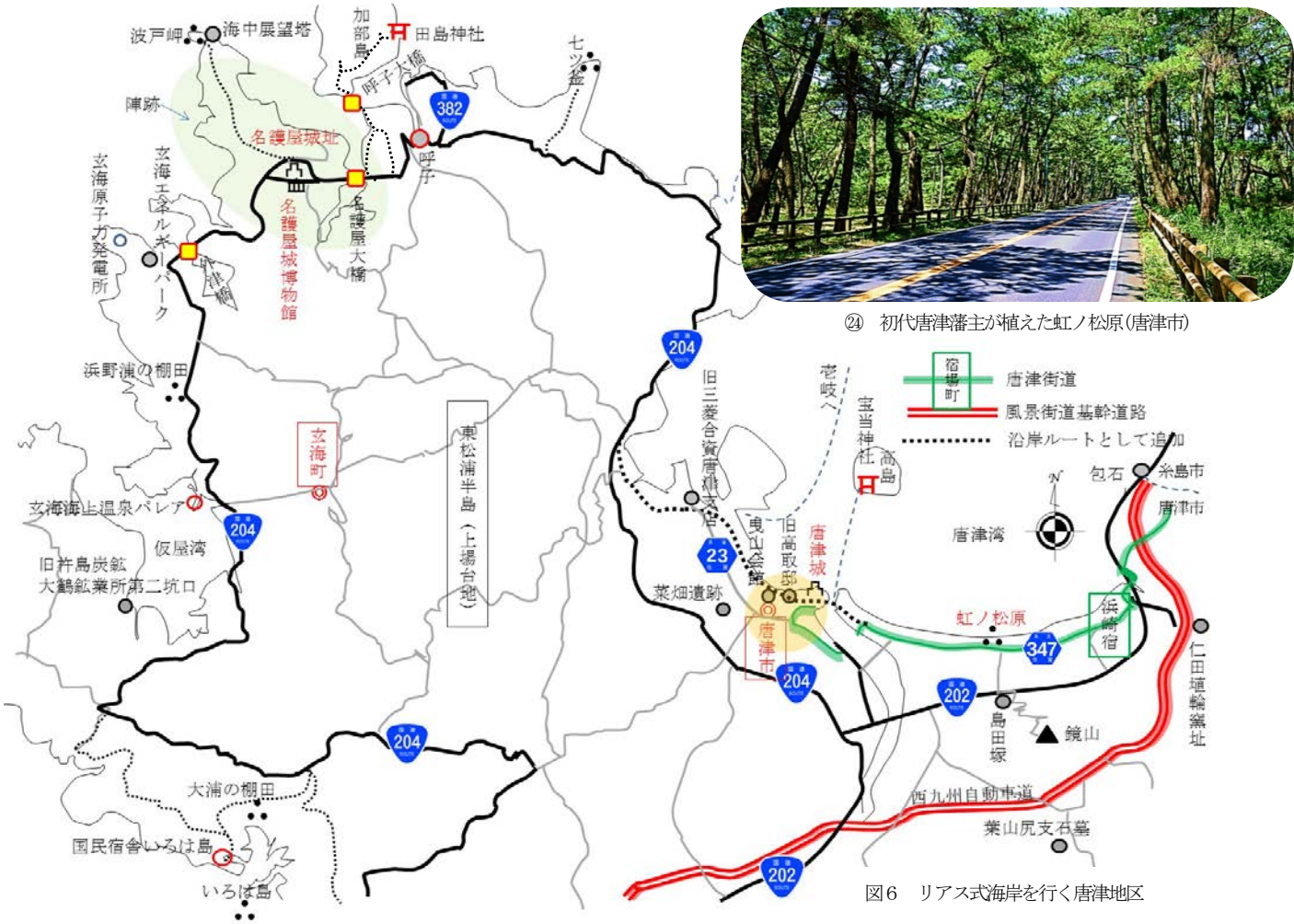


図６　リアス式海岸を行く唐津地区

橋）を渡ってアイランドシティに入り、臨港道路を通り博多港の各埠頭を巡るドライブができ、福岡市内を通り抜けるいま一つのルートである（図3、4の黒点線）。

博多湾は、東のアイランドシティから西の小戸ヨットハーバーまでウォーターフロントの開発が進んだ。湾の東寄りは物流施設、中央は旅客施設とタワー、漁港、西よりは業務や住居、商業施設、人工海浜などが整備されている。これらを巡れば、コンテナ埠頭、国際コンベンションセンター、島々を結ぶ高速船、博多ポートタワー、穀物基地、博多漁港⑳、斜張橋「荒津大橋」⑲などに遭遇し、港とまちとをつなぐ風景が浮かび上がる。あるいは最近では、博多港への豪華なクルーズ船の入港数および船による外国人の入港者数が多い。したがって、それらが世界を跨ぐ海道めぐりならば、博多港およびその周辺地域は都市の中にあって、それらの客を迎え、もてなしをする海辺の風景街道である。

シーサイドももち地区⑱や愛宕・豊浜地区は、現代の新都市。福岡タワー、中高層の近代的な高層ビル、マンション、ドーム球場、水上レストラン、人工海浜、大型ショッピングモール、海洋スポーツ施設、ヨットハーバーなどと市民のまちがあり、加えて、金印を展示する博物館がある。これらから興味に応じて回遊先を選び出せば、海に面する都会を好む人たちのモダンな風景街道ともなる。

★砂浜と奇岩が織りなす糸島半島（サンセットロード）

小戸から元寇の役における防塁跡が残る「生の松原」（白砂青松百選）①を過ぎてさらに西に進むと、こぶのように海に突き出た岩場がある。これは含紅雲母ペグマタイト岩脈（国指定天然記念物）で、石英、長石、雲母など50種以上の鉱物を含む火成岩である。そして、その先に弧を描く長垂海水浴場に沿った海辺のまち今宿（いまじゅく）がある。

今宿は、福岡市西区ながらその地域の中心市街地である姪浜とは長垂山が衝立となって隔てられ、まちの趣を異にしている。自然豊かな糸島半島の付け根に位置し、電機工場と住宅街、海水浴場を主にした郊外の街の風情である。そうした中、国道202号から一つ海辺よりの唐津街道を進むと今宿交差点に「右桜井道」と記した追分石㉒がみつかる。それに誘われて県道54号へと寄り道すれば、糸島半島の北端である北崎に至る（図5）。途中には今津干潟があり、野鳥の飛来と、生きた化石といわれ、古代からの生き物カブトガニの産卵地がある。

さらに市民憩いの海水浴場や海釣り公園を経て、宮浦・唐泊に到着。博多湾の入口として、遣新羅使、遣唐使の時代には船の潮待ち、風待ちに利用され、江戸時代には黒田藩の米を江戸、大阪に運ぶなど、筑前五ヶ浦廻船の港として栄えたところである。

風吹けば　沖つ白波　恐み（かしこみ）と　能許の亭に　数多夜そ寝る　（作者不明。万葉集）

能許（のこ）は博多湾に浮かぶ能古島のことで、その対岸が唐泊で、出航をまつ心情を綴った歌である。

博多湾に背を向け宮之浦から先へ行けば玄界灘に面した農漁村・西浦に至る。ここも特異な集落である。集落内を歩くと大正時代または昭和初期にタイムスリップした感があり、昔ながらの村がある。海辺よりは細街路で、家々が肩を寄せ合い小宇宙にも似た漁村固有の雰囲気が色濃く残る。そして背中合わせの内陸よりは典型的な農村集落である。

西浦からは、同じ県道54号でもサンセットロードと呼ばれ、うち野北までが糸島半島の北端ルートである。この区間は海辺を満喫する風景街道で、ところどころに弧を描く白砂の浜があり、各地で荒々しい波に立ち向かう岩場の景勝に遭遇する。

二見ヶ浦㉕はいわゆる夫婦岩。三重県伊勢市のそれと同様に海辺にあるが、伊勢市のものは2つの岩の大きさが大きく異なり、親子にも見える。これに対し、二見が浦はまさしくつり合いの取れた夫婦岩である。毎年5月の大潮の干潮を期して長さ30m、重さ1トンの大注連縄（おおしめなわ）張り行事が行われる。また、NHK大河ドラマ「北条時宗」（2001）のロケ地で、夕日がきれいなことでも有名である（渚百選＆夕日百選）。

そしてなおもそのまま海辺を進むと、県道54号は彦山（標高231m）にぶち当たり海側の山腹を周回することとなる。しかし、この区間は海側に崖なす1車線の山道で、見通しもさほど良くない。天候不良の時や夜間は大変危険である。代わりに図5の内陸側の県道547号に回りこみ、伊牟田交差点で右折して野北方向に少し進むと再び県道54号（サンセットロード）となり安全である。

野北から芥屋までは幣（にぎ）の浜⑲。きれいな弧を描く砂浜で、海水浴が盛んである。そして、芥屋の大門㉖となるが、玄武岩の柱状節理で、海蝕によってできた我が国最大級の玄武岩洞（高さ64m、開口10m、奥行き90m）である。海蝕洞へは芥屋漁港から遊覧船があり、海から中に入ることができる。途中で黒磯と呼ばれ、波の作用ではがれ落ちた玄武岩の海辺にそそり立つ巨大な柱状節理をもつ岩塊を目の当たりにするとき、まさしく景勝と呼ぶにふさわしい光景。「柔よく剛を制す」の大パノラマをなすといってよい。

芥屋から、半島の西を岐志、新町、小富士（サンセットロードはここまで）、加布里の諸集落をたどると再び国道202号にでる。この区間は、筑紫富士とも呼ばれる可也山④（365m）の西側を周回するが、途中に道祖神社（志摩岐志）、新町遺跡展示館（志摩新町）、万葉の里公園（志摩船越）がある。

その後、海岸線に沿って走行すると宿場町深江となり、砂浜に転がる「わくろ石」、伊能忠敬も日記に記した「包石」などの奇岩を眺めるうちにいつのまにか県境

㉕　二見ヶ浦（糸島市志摩桜井）

㉖　芥屋の大門（糸島市志摩芥屋）

を越え、佐賀県の浜崎宿に到着し、唐津市に入る（図6）。

★　東松浦半島の東海岸を北進する―唐津、呼子

浜崎宿と唐津城の間に延長約5㎞に及ぶ「虹の松原」㉔がある。かつて「一里松原」とも呼ばれ、それが転じての呼称だが、初代唐津藩主寺沢広高が新田開発の一環で防風林として植えたことに始まる。

今日では、日本三大松原の一つで、国指定の特別名勝である。白砂青松百選、なぎさ百選、日本の道百選と百選総なめで、松林の中をドライブするもよし、昭和天皇散策の小道を逍遥するもよしだ。約100万本のクロ松の樹海の中、夫婦松、槍掛けの松、太閤松などとさまざまな姿の松があるが、名もない松に多くの人が受け入れる名付け親にチャレンジすることも面白いであろう。

㉗　朝市とイカ料理で有名な呼子港（唐津市呼子町）

そして、その先は東松浦半島の東海岸。みどころは唐津の城下町と半島北端の呼子町、鎮西町である。城下町・唐津では、海に突き出る城㉓を見て、周辺を散策。さらに菜畑遺跡（縄文晩期の水田跡）に立ち寄り、国道204号に戻り、遺新羅使がわが国を最後にして立ち寄ったといわれる神集島を眺めつつ北上すれば七ツ釜に至る。七ツ釜は、芥屋の大門と同じ玄武岩の海蝕でできた断崖絶壁と七つの海蝕洞による景勝地で、芥屋の大門に負けていない。

再び国道に戻り、ほどなく行くと朝市とイカ漁で有名な呼子町㉗に着く。そこから呼子大橋㉘を渡れば暖地植物群落保存の加部島である。加部島は壁島ともいわれ、呼子港を守る天然の防波堤をなすが、先に紹介したように、松浦佐用姫に関わる田島神社があり、南側の風の見える丘からは呼子の町が展望でき、北の加部島展望所、肥前立石埼灯台からは百済の武寧王生誕の地といわれる加唐島が望める。

他方、呼子・鎮西町にまたがり名護屋城跡⑮と陣跡があり、半島北端の波戸岬に足を延ばすと（図7）、天気が良ければ夕日がきれいで、加唐島は無論、彼方に壱岐、対馬が眺望できる。

★　高台と海がコントラストなす東松浦半島の西海岸をたどる

名護屋城跡から半島の西岸を進むと、農業と漁業のまち玄海町がある。玄界灘風景街道の範囲では最西端に位置し、周辺町村が唐津市と合併してしまったためそれ単独で東松浦郡である。自然が豊かで、夕日に映えた高台と海のコントラストの風景に強い印象を抱くが、その中に忽然と姿を現すのが玄海原子力発電所㉚と、関連で整備されたエネルギーパークである。パーク内の太陽の塔にのぼれば発電所が一望でき、最初の1号機は1975年の運転開始で、以後4号機まで順次建設された。それらのうち2機はすでに運転期間を終了したものの、2機が現在も稼働状態にあり、九州のエネルギー源としていまなお重責を担っている。

そこを南下すると、海に面する浜野浦の棚田㉛に遭遇する。浜野浦川が海岸に流れ込む谷に形成されたもので、「恋人の聖地」のモニュメントがあり、その向こうに海をみることができる。先端的エネルギー施設とスローライフの棚田。この奇妙な取り合わせが玄海町の現実である。

玄海町の先は、伊万里湾に面し、再び唐津市で肥前町と呼ぶ地区である。「いろは島」に向かう途中の大浦の棚田㉜をはじめ、海から山の谷あいに向け多くの棚田が発達したところである。通常、棚田といえば谷間にある。しかし、この一帯は、海に向かってかけ下りる斜面に発達している。潮風と夕日が売り物の棚田で、高台と海の共生が目の前に広がる光景は開放感に満ちている。

その先は「いろは島」。多くの小島が伊万里湾に浮かぶ。範囲の取り方にもよるが、島の数は48といわれ、それに由来してのネーミングである。眼前に額縁をかざせば、そのまま表情豊かな瞬時の絵となる。

㉜　海に駆け降りる大浦の棚田（唐津市肥前町）

㉘　加部島の風の見える丘公園からの呼子大橋と松浦半島

㉙-2 和船と亀甲船（朝鮮）の模型

ろう。

以上、玄界灘風景街道の沿岸を走り抜けるウェストコースト の概要である。自然の景勝地が多い上に、古代から連綿と続く豊かな歴史と物語がある。筥崎宮から名護屋城へは太閤秀吉が通った道であり、江戸時代には諸大名の参勤交代の道、福岡藩が長崎の警護に赴いた道でもある。とはいえ、市街地を含む現代の交通状況からすれば、１日での走破は無理で、週末など数回に分け、幾度となく変化に富む自然と歴史豊かなまちの旅を楽しむとよい。

三　歴史都市の中枢 福博地区をぶらつく

１　商人まち博多と城下町福岡をぶらつく

福岡市は人口１６０万の大都市だが、古代の那の津（博多津）以来の国際色豊かな港町、中世の商人と国際交易の町に、近世の武家文化と城下町が重なり、それらが融合し発展した現代都市である。したがって、見どころは山ほどある。歴史、文化、食を含め、多文化都市の神髄に触れる風景を楽しむことができる。

その中で、特に重要といえるまち歩きの区域をあげれば、ＪＲ博多駅と博多港の間の博多部である。あるいは、都心天神地区・福岡城跡とその周辺である。これらの大部分は、地下鉄空港線、七隈線の沿線で、地下鉄の１日乗車券を買い、それをもって乗り継ぎながらぶらつけば、交通費はそれだけですみ、極めて安上がりである。そればかりか、まち中の道路や駐車場の混雑を気にする必要もなく、大いに奨めたい回遊方式である。

1　中世・現代が競う博多のまち歩き

図８は博多のまちの主な見どころだが、訪れる人は博多駅や福岡空港から出入りすることが多い。このことを踏まえ、次のように巡ることも一案である。

ＪＲ博多シティ（博多駅）㉞を出発し、キャナルシティ㊱へ。ついで、櫛田神社（博多の総鎮守。博多祇園山笠の飾山を一年中見ることができる）に至れば、そこは博多祇園山笠における追山笠のスタート地点である。〝ヤー！〟と一斉の掛け声で男衆たちが走り出し血をわかせるパワースポットである。

また、門のすぐ前に「博多町家ふるさと館」および「はかた伝統工芸館」がある。博多町屋は明治時代の博多織の織元の住居兼工房を移築し保存したもので、博多のまちの暮らしや文化を直にみることができる。伝統工芸館は博多織や博多人形の伝統工芸品などを紹介する施設である。まち歩きの前に立ち寄り、それらの知識を手に入れ、古い博多の町をイメージするとよい。

キャナルシティの手前、博多駅よりの四つ角に管絃町ビルがある。その玄関前の入居者案内板に江戸時代と現代のまちを重ねた地図があり、スマートフォンに写し、まち歩きに生かせば、これまた街歩きの上で参考になるだろう。

通称、国体道路と呼ぶが、国道２０２号を東へ向かい出来町公園に至れば、そこは九州鉄道が最初（１８９９年）に博多駅舎を設けたところで、九州鉄道発祥の地の碑がある。しかし、翌年、すぐ横に本格的な祇園駅舎が完成し、正式にはそれが初代博多駅舎である。また、同じ位置に２代目駅舎（１９０９年）、そして現在位置に鉄道高架に伴う昭和駅舎（博多ステーションビル、１９６３年）が建てられ、２０１１年に至って九州新幹線開業に伴う平成駅舎（ＪＲ博多シティ）に建て替えられた。このように、博多駅は、３度場所を変え、４度建て直された。

ところで、出来町公園の斜め前に承天寺がある。寺の前には最近「博多千年」の門が建立され、それが目立つが、実は、承天寺は、博多祇園山笠に関わる寺で、そのことこそ歴史的に大きな意味がある。

つまり、鎌倉時代の１２４１年、承天寺の開祖・聖一国師が施餓鬼棚に乗って水をまき、まちを清めて疫病を退散させた。このことが博多祇園山笠の由来とされている（博多祇園山笠振興会）。このため、寺の前に清道旗（幅９０㎝、長さ６．５ｍ）が立てられ、その周りを追山笠がぐるりと廻る習わしがある。櫛田神社の奉納神事とはいえ、山笠は神仏混淆の祭りであるが、参考までに、承天寺以外にも、追山コースの出発点の櫛田神社境内および東長寺（櫛田神社に神官がいなかったとき、東長寺の住職が祝詞をあげた）前にも清道旗が掲げられ表敬を受ける習わしである。

承天寺から、御笠川に沿うように寄り道しながら川を下れば、博多のまちを寺から寺へと訪ね歩くことができ、瓦や石を塗り込めた独特の博多塀がみられる（聖福寺㉟、櫛田神社など）。また、黒田藩主の墓所（崇福寺、東長寺）や博多の豪商の墓（妙楽寺、幻住庵、崇福寺など）、幕末の志士・加藤司書の墓（節信院）がある。これらの前に立つと、かつて博多の街で活躍した人たちがその行く末を静かに見つつ、博多のまちの歩みを振り返り、次の時代をめざせと諭される思いがする。

その後は、博多祇園山笠の追山笠コース沿いに歩くことが考えられる（図８赤太線）。太閤の町割りのお蔭でコースは格子状であることから迷う心配はない。追い山コースの下見ができ、通りが交差する街角には、かつての市内電車の舗石を使って旧町名とその由来を記した小さな石碑があり、それを探しあてつつ歩くとよい。対馬小路、奥堂厨子、辻堂、蓮池口、呉服町、普賢堂、竹若番などと。

秀吉の町割りは、一つの山の七堂伽藍になぞられての街の整備である。現在の博多駅前から博多港方面へまっすぐに伸びる大博通りがあり、それを港の方向に進んだところに博多小学校がある。そこを市

（一）小路と呼ぶが、そこを出発点に6尺6寸の間杖（ものさし）用いて町割りが行われた。南北（縦筋）、東西（横筋）に町筋を引き、向三軒両隣的な家々をまとめた背割り方式の町の組み立てである。七小路、七厨子、七堂など、七×七＝四十九の願を込めた町割りであり、そうした町を町筋ごとに集めて流れと称する自治組織がつくられた。

一方、現代の町割りは、戦後1966年に導入された街区方式である。したがって、太閤の町割りとはがらりと変わった。そうした中で、従来からの祭りである博多松囃子や博多祇園山笠の祭りの実施で流れの概念が継承されている。例えば、現代の博多祇園山笠では飾る山笠と舁く山笠の2通りがある。後者は、町筋ごとに10数の旧町にまとめて相当する区域を一つの流れとする七流れ（千代、恵比寿、土居、大黒、東、中洲、西）を構成し、互いが競い合って街なかを駆け抜ける追山が勇壮に行われている（二章2節の「太閤の町割り」の項を参照）。

こうしたことが分かって博多の町筋（通り）をたどるとき、それは太閤の町割りへのタイムスリップであり、秀吉が描いた大願成就として博多のまちを呼び起こす巡礼の道にもなる。

追山の廻り止め（終点、須崎問屋街入口）の向いは博多リバレイン。そこから川端商店街を突き抜ければ、あるいは、博多川沿いの遊歩道を上流に遡れば、再びキャナルシティに戻り、さらに博多川、那珂川を遡り住吉神社前通りを進めば住吉神社にたどり着く。

住吉神社の本殿（1623年、国重要文化財）は、回廊がなく、屋根や破風が直線的であるなど独特の古代建築様式で、住吉造（づくり）と呼ばれ、日本最古の筑前一之宮である。初宮参り、七五三の節句などと、何かにつけ人生の節目で博多っ子、福岡市民はお参りをしている。そして、ここから東へ進むと出発地のJR博多シティに戻る。

2　都心天神と福岡城周辺地区をぶらつく

福岡市の都心は、現在、博多駅地区の躍進もあって、天神地区と競い合う状況である。とはいえ、もともとは天神地区が都心であった。このため商業、行政、文化といった諸施設がいまなお天神に集中している。

その都心と周辺市街地一帯について、地区特性にもとづいて区分したものが図9である。1～2㎞四方の5ブロックに分けられ、まちの神髄や働きにふれながら各々で趣を異にする楽しいまち歩きができるが、それぞれの概略は以下のとおりである。

❶ 先ず**春吉・渡辺通地区**は、都心に隣接し、旧城下町の外れで、庶民のまちである。あるいは、住吉橋を渡った対岸で、住吉神社の門前町である。これら2つの意味で、都心とは極めて異なり、路地のまち、柳橋連合市場を取り囲む生活のまちであるといってもよい。

承天寺前歩道上の「博多千年」門

図8　博多のまち歩き

柳橋連合市場は、1918年、那珂川の川岸の路地で、大浜にあった魚市場から仕入れた鮮魚を運び売り出したことが始まりである。市民のみならず、各飲食店の食材の仕入れどころといえ、大正、昭和の古い木造建物や狭い路地が迷路のように残り、約50の小売店舗がひしめく博多の台所である。ただ最近では、土地区画整理事業による建物の中高層化、近代化が進み、庶民が楽しむ飲食店が進出し、夜の賑わいが増えつつある。

❷ 次は**天神地区**。西鉄大牟田線と地下鉄が切り結ぶ交通の要衝で、文字どおり福岡の顔である。デパートなどの商業施設やオフィスビルなどが立ち並び㊲、天神地下街、新天町商店街、大規模なビルの地下や上層階のレストラン街、ホテルなどが密集する。最近では、国内外から多くの旅行者が集まり、福岡のみならず、九州の観光拠点、ショッピング街、オフィス街として賑わっている。

一方、付近の那珂川の川べり、水上公園、水鏡天満宮、天神中央公園、市役所ふれあい広場、警固神社などはまち中のオアシスである。まち歩きに際し、一休みするとよい。

平安時代、菅原道真は、大宰府への左遷にあって博多に上陸、今泉の四十川（現在の薬院新川）にわが身を写し、そのやつれた姿を嘆いたと伝えられている。また、天神とは、本来、雷神のことだが、左遷後の都における清涼殿落雷は彼の怨霊と恐れられ、道真没後、神格化し天神様と呼んでいる。これら2つから、本地区の天満宮を特に水鏡天満宮、あるいは水鏡天神、容見（すがたみ）天神などと称し、町名「天神」の由来となった。参道の代わりか、境内横に沿う天満宮横丁に飲食店が長屋のように並ぶ変わり種でもある。

❸ 図9をよくみると、中心市街地を東西に貫く明治通りが、天神地区の西端（西鉄グランドホテル前）でS字に曲っていることに気づくだろう。福岡城の守りのために導入されたかぎ型路地の名残だが、そこを天神西通りが交わり、天神と大名の両地区の境をなす。

大名地区は福岡城に近いことから、かつては身分ある武士が居住し、町の名の由来でもある。また、その南に薬院や今泉、紺屋町、小姓町などがある。江戸時代からのものがそのまま今も町名や通り名に用いられているが、実態は若者中心に賑わうまちである。個性的なファッション店や飲食店、クリエイティブな産業が盛んである。福岡地方の代表的な郷土料理の一つに「がめ煮」がある。あり合わせの食

材を混ぜて煮込んだものだが、それに似て、大名や町人まちも、伝統と斬新、古風と先端が入り混じるがめ煮文化のまちである。

天神町から明治通りを少し西へ進むと、中央区役所の斜め前の角地（大名2丁目）に銀杏の大木がある。これは、熊本藩の加藤清正の重臣で、加藤家が改易になったのち黒田藩に召し抱えられた飯田覚兵衛の屋敷跡である。江戸初期、熊本城から苗木が移植され、以来400年以上にわたって福岡のまちを見続けてきた生証人で、貴重である。

❹ **福岡城跡**㊴は、**鴻臚館跡**と同じ所にあり、両者を合わせた一帯が舞鶴公園である。また、隣の大濠公園は、もともと草ヶ江の入り江であり、万葉集に

草香江の　入り江にあさる　葦田鶴（あしたづ）の　あなたづたづし　友なしにして　（大伴旅人）

と詠われたところを埋め立てたもので、中国・杭州市の西湖を模した大濠池がある。両公園は互いに繋がり、その中に鴻臚館跡展示館、福岡城跡、桜の名所、日本庭園、能舞台、大濠池、市立美術館がある。丁寧にみてまわれば半日ないし1日はかかる。

❺ いま一つ、近くの博多湾よりに**西公園**がある。これは入り江の突端にあった荒津山（荒戸山）と呼ぶ小山を公園にしたものである。玄界灘方向に向かって坂道、そして階段をまっすぐに登れば黒田如水、長政親子を祀る光雲（てるも）神社があり、西に回れば博多湾一望の展望所がある。眼下に鵜来島や荒津大橋（斜張橋）⑲を見ることができる。また、桜3000本が植えられ、毎春、会社や学校帰りの夜桜見物のための場所取り合戦が繰り広げられ、新入社員や新入生の歓迎会、親睦会などが盛んで、いまでは春の風物詩である。

西公園を周回し元に戻ったところを唐津街道が横切り、唐人町商店街、福岡藩の西学問所・甘棠館（かんとうかん）跡がある。そこを左に折れ明治通りをはさむ反対に渡って歩を進めれば、平野國臣神社、鳥飼八幡宮がある（図9）。鳥飼八幡宮は、応神天皇、神功皇后、玉依姫命を祭神とし、初代藩主・黒田長政が鳥飼村から現在地に移したものである。平野國臣は、福岡藩士であり、幕末の武士である。攘夷派志士として薩摩藩の動きに加わろうとしたがかなわず、

我が胸の　燃ゆる思いに　くらぶれば　**煙は薄し　桜島山**

と詠じた。

㉞ 線路をまたぎ賑わいを見せるJR博多シティ（博多区）

㉝ 日本最初の禅寺・聖福寺（博多区）

㉟ 都市の主軸をなす博多駅前の大博通り（博多区）

㊱ 商業、娯楽施設「キャナルシティ」（博多区）

3 その他のまち歩き

以上の他に、福博地域にあっては、中世の武士たちが戦いの前に必勝祈願し、江戸時代の参勤交代に際し旅の無事を祈り、そして現代では球団ソフトバンクが必勝祈願をする宮崎宮とそれを支える箱崎地区や、その西隣の馬出（まいだし）地区、県庁・東公園一帯のまちめぐりがある。

また、近代都市の姿と、ベイサイドプレイス博多や博多ポートタワー（100m）、鮮魚市場をかかえる都心埠頭地区（中央、博多、須崎の3埠頭や長浜）、ドーム球場やウォーターフロント施設マリゾン、福岡タワー（234m）、人工海浜、博物館などからなるシーサイド百道やマリノアシティ福岡地区のまち歩きがある。あるいは、リヤカー部隊で有名な庶民のまち西新商店街、姪浜千軒とも呼ばれ、今なお宿場町の面影が伝わる姪浜のまち歩きも趣を異にして面白いであろう。

2 福博地区を代表する祭りや多彩なイベント、

1 「博多どんたく」、「博多祇園山笠」など

福博地区の祭りといえば多彩だが、双璧といえるものは博多どんたく、および博多祇園山笠である（表1）。前者㊵は、ゴールデンウィークの5月3、4日に、博多松囃子（国重要無形文化財。本来は三福神および稚児が新年を祝う民俗行事がもとになったといわれている）一行が市内各施設や企業などを祝って巡るとともに、それを先頭にどんたくに隊と称する市民あげての街のパレードや本舞台、演舞台で演じる祭りである。200万人を超える見物客が訪れ、全国一の規模を誇る。

また、松囃子そのものは800年以上の歴史をもつが、明治時代に一時中止となり、その後の復活に際し「どんたく」の呼称が使われ始めた。オランダ語のZondag（休日）が語源といわれ、いまでは「博多どんたく港まつり」と呼ばれている。

一方、祇園祭は京都の八坂神社の祭礼が最も古く有名で、それが全国に広まったといえるが、その中で、櫛田神社祇園例大祭の博多祇園山笠㊵も１２４１年から続く古い祭りである。共に７月上旬に開催され、京都の豪華絢爛さに対し、博多は追山を含む勇壮な祭りである。国指定の重要無形民俗文化財であり、ＵＮＥＳＣＯの世界文化遺産に登録されている。博多人形師の業になる「飾山笠」が街の随所に飾られ、「舁山笠」を担いで流舁き、集団山見せ、追山笠などの諸行事がある。

特に、追山笠は、７月１５日の早朝４時５９分から５分ごと（２番山笠だけは１番山笠の神社入りで博多祝い唄を披露する１分を含めるため６分後）にスタートし、櫛田神社の境内から須崎町の廻り止めまで、オイショオイショと約５㎞に及び山を担いで走る櫛田神社の奉納神事である。「山笠のあるけん博多たい」。もとはある菓子店のＣＭだが、今では博多っ子が山笠にかける情熱を端的に表わす言葉として広く用いられている。

２つの祭り以外に人出が多いものをあげると、玉せせり（筥崎宮）、十日えびす（十日恵比須神社）、節分大祭（櫛田神社、東長寺）、放生会（筥崎宮）、流鏑馬（やぶさめ）神事（飯盛神社）などがあり、年を通じて切れ目がない。祭りが好きな博多っ子ならではのことだが、その多くは博多のまちおよび東区、早良区、西区などかつての農村地域の祭りである。

他方、博多駅、博多部の寺、天神の公園などでは、ミュージックシティ天神（九月）、ふくこいアジア祭り（十一月）、中洲まつり、仮装して行列なすハロウィン、秋、冬のイルミネーションや灯明まつりといった新たなタイプのまつりもあり、盛んである。

2 イベント

祭り以外に、たとえば学会等の国際会議が東京に次いで多いことに加え、大規模なスポーツや文化行事などが多いのも福博地域ならではのことで、九州随一である。玉竜旗高校剣道大会、金鷲旗高校柔道大会、大相撲九州場所を定番とし、プロ野球・ソフトバンク、プロサッカー・アビスパ福岡のホームグランドである。

㊳ 福岡城天守台跡からの大手門、赤坂（中央区）

㊲ 商業施設が集積する都心・天神（中央区）

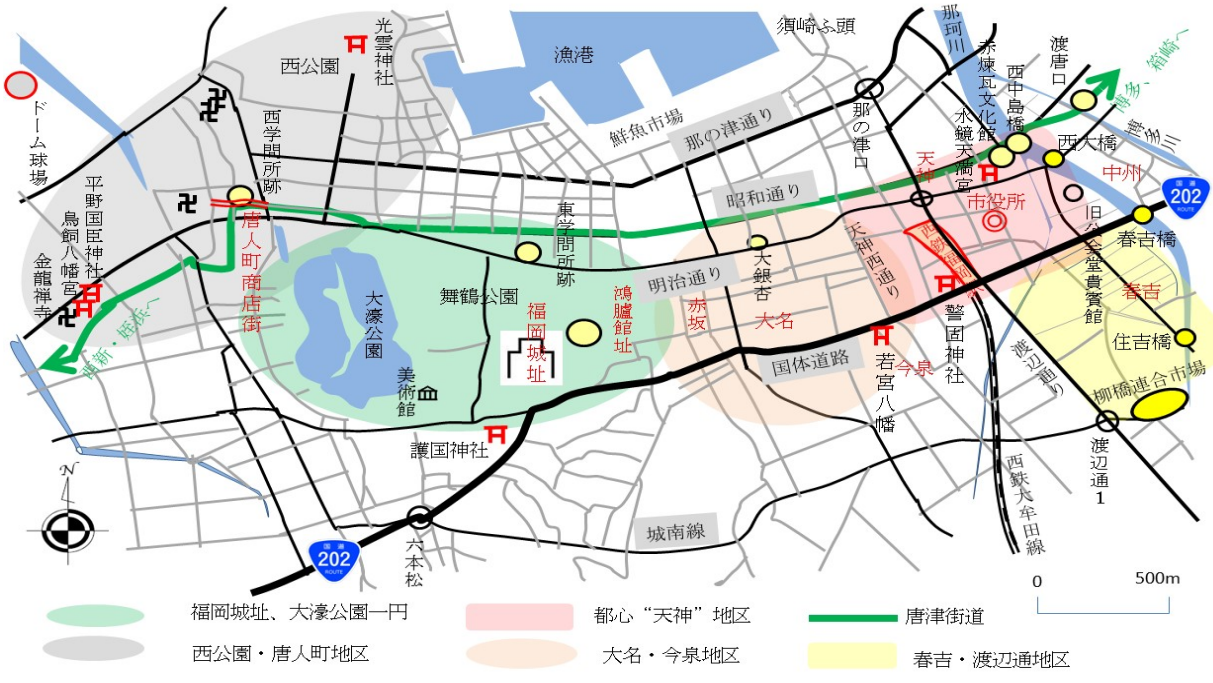


図９ 城下町”福岡”のまち歩き

㊴ 福岡城跡の南丸多聞櫓（中央区）

水鏡天満宮

文化面では、アジア太平洋フェスティバル福岡、アジアフォーカス福岡国際映画祭、アジア太平洋こども会議などと多くの国際的取り組みがある。

あるいは、専用劇場に博多座、キャナルシティ劇場、新劇座などがあり、また多数のホールがある。これらでは昼夜にわたり演劇や音楽会が催されており、天神、渡辺通、博多駅中央街、駅前、筑紫口などのチケット売り場を覗くとよい。

3　市内観光バスと湾内観光船など

市内観光のため、オープントップバスが走っている。昼の「シーサイドももちコース」と「博多街なかコース」の2コースがある。加えて、夕景・夜景の「福岡きらめきコース」がある（0120-489-939または092-734-2727）。所要時間は約60分だが、二階建てバスからの視線が高く、マイカーとは趣を異にした町の眺めを楽しむことができる。

他方、博多湾内や那珂川にも観光船がある。天神～ベイサイドプレイス、那珂川周遊コース（以上092―263―8113）、那珂川・博多湾周遊コース、天神～能古島コース（以上092―651―6555）、中洲クルーズコース（092―734―0228）。あるいは、「マリエラ」によるトワイライト、ランチ、ディナーの博多湾クルーズ（092―751―7171）、市営渡船による夏場の納涼船もあり、水上からのまちめぐりが思い出に満ち溢れた風景街道ともなるであろう。

表1　福岡市の祭り

月	祭り	場所	問合せ	備考
1	今宿青木獅子舞	八雲神社（西区）		
	玉せせり	筥崎宮（東区）	092-641-7431	
	十日恵比須	十日恵比須神社（博多区）	092-651-1563	
	歩射祭	志賀海神社（東区）	092-603-6501	
2	節分大祭	櫛田神社	092-291-2951	
	〃	東長寺	092-291-4459	
	猿田彦神社の初庚申	猿田彦神社（早良区）	092-821-2049	（紅葉八幡宮）
4	春季氏子大祭神幸式	香椎宮（東区）	092-681-1001	獅子楽
5	博多どんたく（博多松ばやし）	市内一帯	092-441-1170	
7	博多祇園山笠	櫛田神社境内（博多区）他	092-291-2951	
	田島神楽	田島八幡神社（城南区）		
	元岡獅子舞、祇園ばやし	元岡八坂神社（西区）		
8	田隈の盆押し・盆綱引き	地禄神社（早良区）		
	草場の盆綱引き	草場（西区）		
	西浦のかずら引き	西浦（西区）		
	宇田川原豊年獅子舞	丸隈山古墳（西区）		
	大浜流灌頂	大博町（博多区）	092-281-0343	
9	筥崎宮放生会	筥崎宮（東区）	092-641-7431	
	賀茂神社の千灯明	賀茂神社（早良区）	092-863-7741	（賀茂公民館）
10	神幸祭、国土祭（流鏑馬奉納）	志賀海神社（東区）	092-603-6501	
	秋季大祭	飯盛神社（西区）	092-811-1329	流鏑馬神事
	博多おくんち	櫛田神社（博多区）	092-291-2951	
11	歩射祭	住吉神社（博多区）	092-291-2670	
	やまほめ祭	志賀海神社（東区）	092-603-6501	

㊵　博多の祭り―博多どんたく（左上）と博多祇園山笠

3　大都会を満喫の福博地域のホテル、土産物店、ガイド

1　ホテル

大規模なホテルは博多駅周辺と天神地区に集中しているが、渡辺通・薬院地区、シーサイド百道、箱崎・吉塚地区、海の中道公園などにもある。いずれにしても都市型、ビジネス型からリゾート型、長期滞在型まで多彩なホテルがある。それでも春のどんたく、夏の博多祇園山笠や春・秋の学会シーズン、11月の大相撲九州場所の開催時は大変な混みようで、予約が必要である。

2　レストランなど

玄界灘の魚や海産物、周辺農村の農産品が豊かなことから、福岡のまちは食文化が良く発達し、レストランや飲食店も枚挙にいとまがない。ミシュランガイドをはじめ沢山のガイドブックや冊子が発行されているので詳細は省略するが、大まかには、博多駅とその周辺、都心天神やそれに隣接する大名・赤坂、薬院・今泉、春吉、さらには副都心・香椎や大橋、西新などに多くの店がある。あるいは、商業施設内やバイパスなどの道路沿いに飲食店が集中し並ぶ箇所も多い。

料理では魚が新鮮との評判だが、それらに加えて、郷土料理の博多がめ煮、博多もつ鍋、水炊き、博多ラーメン、おきゅうと、あぶってかも（焼き魚）、辛子明太子など博多ならではのものが多々ある。また、九州中から集まるブランド食材を用いた料理や国内外の食まで、多種多様に味わうことができる。

なお、農産品や食のブランド名はほとんどが「博多○○」であり、福岡地区でとれても福岡を用いることは少ない。ただ、福岡を冠する場合は福岡市以外の福岡県産を意味することが多い。

天神と博多に挟まれて中洲地区があり、夜のまちである。来街者だけでなく、福博地区のサラリーマンが勤め帰りに通い、息抜きをするネオン街である。そして最近では、春吉や西通り、大名、警固、今泉、博多駅筑紫口、博多駅にも若者に人気の飲食店が次々に進出。他方、西中洲や薬院には落ち着きある隠れ家的な雰囲気の趣をもつ飲食店や料理店がひっそりと営業し、香椎、西新、姪浜、南福岡などに大衆的な飲食店が多くみられる。

路上の屋台は福博地区の名物であり、終戦直後からの名残で、今なお１３０軒ほどが許可を得て営業している。那珂川のほとり、天神の路上、長浜通り（中央区長浜）に集り、いまやすっかり福岡の街の風物詩である。ビールを片手に、おでん、焼き鳥、焼きそば、そして博多ラーメンが定番であるが、中にはカクテルやフランス料理を出す屋台もある。

要するに、博多、福岡の食はガイドブックに載らない穴場が多く、質の高い店がある一方で、Ｂ級グルメ、Ｃ級グルメと庶民的なものもあり、多彩である点が特色である。

3　買物

福岡は商業都市であり、博多駅、川端、天神、渡辺通、あるいは、香椎、箱崎、大橋、雑餉隈、六本松、唐人町、西新、姪浜といった各地区に商店街が形成されている。中でも都心部にはＪＲ博多シティ㉞、キャナルシティ㊱、博多リバレイン、天神のデパート群㊲や天神地下街、新天町、柳橋連合市場などがあり、大変賑わっている。その一方で、中央区地行浜のマークイズ、西区豊浜のショッパーズモールマリナタウン、西区小戸のマリノアシティがあり、東区東浜のゆめタウン博多、西区橋本（地下鉄七隈線の終点駅）の木の葉モール橋本、アイランドシティのアイランドアイといった多くの大規模商業施設が市街地を取り囲んでいる。加えて、朝市、夕市が、年始・年末などを除いて郊外を主に随所で催され、生産地直結の新鮮な農産品や水産品が入手できる。

要するに、都会から田園まで、多彩な商い文化、食べもの文化が発達した博多、福岡ならではの商店街、商業施設の展開である。

4　博多の伝統工芸品

博多の伝統工芸品は単に中国などからの伝来ものだけではなく、工夫を加え独自性あるものに発展したものが多い。博多人形、博多ちゃんぽん、博多張子、博多独楽、博多曲物（杉やヒノキの板の曲げわっぱで、弁当箱が代表的）、博多織、博多ビードロ、筑前博多矢、博多鋏、高取焼、おはじきなど。これらはそれぞれの専門店やデパート、商店街で手に入る。あるいは、博多駅のみやげもん市場、櫛田神社前のはかた伝統工芸館や博多町家ふるさと館でも販売されている。

3　観光案内、ガイド

福岡観光コンベンションビューローおよび市内の観光案内所などが、まちの情報や観光案内、ガイドの紹介などを行っている（表2）。

表2　福博地区の観光案内、ガイド

名　称	電　話	住　所	備　考
福岡観光コンベンションビューロー	092-733-5050	中央区天神1丁目11-17福岡ビル4階	
福岡市観光案内所（博多駅）	092-431-3003	博多区博多駅中央街1-1	08:00～21:00
福岡市観光案内所（天神）	092-751-6904	中央区天神2-1-1ライオン広場内	10:00～18:30
福岡空港国際観光案内所	092-473-2518	博多区青木739福岡空港国際ターミナル	8:00～21:30
博多港国際ターミナル総合案内所	092-283-8808	博多区沖浜町14-1	09:00～18:00
福岡市観光案内ボランティア	問合せは福岡観光コンベンションビューロー		
福岡歴史探訪ガイド	092-771-6773	中央区地行3-22-13	福岡城址・鴻臚館、天神、大名コース
西区歴史よかとこ案内人連絡協議会	092-882-5853	西区小戸3-31-29	姪浜・愛宕・下山門、今宿・周船寺、能古島コース

四　古代ロマンあふれる糸島地区をたどる

1　卑弥呼伝説にまつわる伊都国の女王、王の墳墓をたどる

糸島地区は、古くからの農村、田園都市というだけでない。真偽はともかく、天孫降臨の神話さえ語られる歴史ロマンの地である。

福博地区から糸島地区に入るところに高祖山がある（図5）。その北よりの日向（ひなた）峠に瓊瓊杵尊（ニニギノミコト）が降り立ったなどと神話につながる話をよく耳にする。これは、倭人のルーツを海からの渡来としてとらえ、ニニギノミコトが「筑紫の日向の高千穂の久士布流多気（くじふるたけ）に天降った」（古事記）とされる中で、筑紫や日向の地名があり、高千穂は高祖山のこと、その高祖村の五郎丸の内、日向山に新村を押立し、その裏山が「くしふる山」であることに因んで椚村と称したなどからの想像とみてよい。こじつけの面もあるが、そうしたこともあってか、半島内には、多彩な神々を祀る神社が多々ある。糸島市内で数えただけでも６０を超え、人口１５００人に一社の割合である。加えて、弥生から古墳時代に至る多くの遺跡群（表3）が発見されるが、この地ならではのことであろう。

表3　糸島地区の主な史跡などの一覧

史蹟等	特　色
伊都国歴史博物館	平原遺跡の展示品（国宝）を主に展示
志摩歴史資料館	大陸との交流の歴史を一堂に展示
新町遺跡展示館	弥生時代の新町遺跡の遺構を再現・展示
石崎曲り田遺跡	縄文時代晩期から弥生早期の集落跡
	従来の弥生前期といわれた稲作の始りを塗り替える。
志登支石墓群	弥生早期～中期の支石墓、朝鮮半島との交流関係品が出土
今山遺跡	弥生初期から中期の大型石斧製作所跡
三雲南小路遺跡	伊都国王の墓ともいわれる巨大墳丘墓。弥生中期後半
平原遺跡	弥生後期の方形周溝墓。周りは公園として整備
	40面の銅鏡出土。うち「内行花文鏡」は最大級
山の鼻１号古墳	４世紀前半の前方後円墳
若八幡宮古墳	４世紀後半の前方後円墳
狐塚古墳	古墳時代中期の円墳で3段の墳丘墓
銭瓶塚古墳	古墳時代中期の前方後円墳。埴輪が多く出土
ワレ塚古墳	古墳時代中期の前方後円墳と考えられる。
鍬崎古墳	４世紀末の前方後円墳
丸隈山古墳	５世紀前半の横穴式石室を持つ前方後円墳
兜塚古墳	５世紀代の前方後円墳
飯氏二塚古墳	６世紀初めの前方後円墳
釜塚古墳	珍しく低地にある県下最大級の大型円墳
一貴山銚子塚古墳	糸島地方最大の前方後円墳。
怡土城跡	続日本紀によると768年完成。中国式山城
一貴山の仁王門	伝説の怡土七ヶ寺の一つ夷巍寺の山門と考えられる。
雷山千如寺	1300年の歴史を持ち、木造千手観音立像（国宝）等
高祖神社	神代時代から鎮座の説。建物は県有形、神楽は県無形文化財
細石神社	祭神は磐長姫、木花開耶姫で、三雲南小路遺跡の拝殿との説
鎮懐石八幡宮	神功皇后の懐石を祀る。九州最古の万葉碑が残る。
浮嶽神社	怡土七ヶ寺「久安寺」の後裔。仏像3体が国指定重要文化財。
志登神社	延喜式神名帳（10世紀）記載の式内社で由緒ある神社（総社）
福井白山神社	1141年創建。縁結びの神様として有名。
万葉の里	志摩船越竜王崎の綿積神社境内。
	1300年前，遣新羅使・阿倍継麻呂ら一行の万葉歌にまつわる。
桜井神社	1632年黒田2代忠之の創建、筑前国の信仰拠点。
旧藤瀬家住宅	江戸時代の住宅で、糸島市神在にあったものを移設保存。

注）怡土七ヶ寺：聖武天皇勅願でインドからの渡来僧・清賀上人の創建とされる

図５は糸島半島の主な見どころである。古墳群が多いものの、よく見るとそれらは地域的に集中している。図中、太青矢印で示すように、かつて今津湾および加布里湾の両方向から入り江が深く入り込み、地形的に怡土郡と嶋（志摩）郡に分れていた。そのうちの怡土郡、つまり脊振山地の麓よりに遺跡が集中する。中でも、高祖山の麓の旧怡土村（１９５５年前原町に編入、２０１０年平成の合併で糸島市）に多いが、その一つに、伊都国の女王と目され、邪馬台国の女王卑弥呼の親者または出身地との説がある平原遺跡㊷がある（表３）。あるいは、三雲南小路遺跡や井原鑓溝遺跡は、出土品から伊都国の王または王族の墳墓と考えられる。

先に魏志倭人伝に、玄界灘地域に３つの国邑の記述があるとした。その中で集落の規模は最も小さいが、伊都国のみに、「王がおり、女王国に属し、帯方郡の使者の往来では常に駐在する所」と特段の紹介があり、一連の古墳群はこのことに関連するとも考える。そこで参考までに、本区域について太古のロマンの路を往くとし、古墳群を訪ね歩く風景街道を設定すれば図１０のとおりである。

福岡市方面からは国道２０２号または県道４９号で怡土地区に入ると、両者を結ぶ県道５６号沿いに伊都国歴史博物館があり、まずはそこを訪ねるとよい。女王の墳墓「平原遺跡」の出土品などが展示されている。重要なものは国内最大といわれる5枚の銅鏡・内行花文鏡（ないこうかもんきょう、直径４６．５㎝）㊶であり、女性が身に着けるイヤリングを含む多彩な装身具である。これらに関し館内ガイドの説明を受け、その後に図中８か所の遺跡や古墳を回遊することがお奨めで、特に、卑弥呼との関係が話題の平原遺跡は見逃せない。近くには、糸島市神在にあった江戸時代の旧藤瀬家住宅（庄屋）㊸が移築され、公開されているのでついでながら訪れるとよい。

それでもさらにと興味がわけば、近くの怡土城（古代の山城で８世紀に築城）や高祖城（中世の原田氏の城）があったとされる高祖山を巡り、麓の高祖神社㊹を訪れることである。怡土城は、朝鮮半島との緊張の高まりを受け、孝謙天皇の命で吉備真備（奈良時代の著名な学者、公卿だが、当時は大宰少弐）が７５６年に建設をはじめ、後に佐伯今毛人（さえきのいまえみし。遣唐大使に任ぜられたが病気のため渡航せず、後に太宰師を努めた）が引き継いで７６８年に完成させたものである。高祖山の西側斜面に大きく広がり、山歩きすればところどころに石垣や望楼跡をいまも見ることができる。

県道５６３号を北へ車で１０分ほど走ると、国指定の史跡「志登支石墓群」（弥生時代）があり、さらに足を延ばせば糸島市志摩に至る。その志摩はかつての筑前国嶋郡に位置し、その川辺里（はっきりし

㊷ 平原遺跡

㊸ 江戸時代の旧藤瀬家住宅

㊹ 高祖神社

㊶ 国宝・内行花文鏡

図10　太古ロマンの道・伊都国を行く

ないが志摩馬場・松隈一帯と目されている）に、わが国最古の戸籍（７０２年）「肥君猪手（ひのきみのいて）」の一族がいたとされる。戸籍を記した断筒は正倉院に保管されているが、それによれば、肥君猪手は川辺里の大領（郡司の長官）で、家族構成１２４人、割り当て口分田１３町６段１２０歩（１３．５ha）であったと記されている。

むろん現在ではその痕跡は見当たらない。しかし、すぐ近くの旧志摩町の中心部（糸島市志摩初一番地）に志摩歴史資料館があり、周辺の浦を主に海とかかわる遺跡が多く発掘されていることから、そうした関連の遺品が展示されている。また、志摩新町には弥生期の墳墓群からの出土品を展示する新町遺跡展示館がある。これらを見ながら、海と共に古代から連綿と続く嶋郡の人々の暮らし、戸籍を持つ一族の存在に思いをはせることは歴史のロマンである。

志摩歴史資料館の屋上から、糸島富士と呼ばれ、１６１８年に日光東照宮の大鳥居の石を切り出した可也山や、朝鮮半島からの通信に用いられた狼煙台があった火山など④、半島の中心部の農村風景が見渡せ、じっくりと眺めることができる。

草枕　旅を苦しみ　恋ひ居れば　可也の山辺に　さ男鹿鳴くも（壬生宇太麻呂。万葉集）

可也山やその近くの芥屋の地名は朝鮮半島の伽耶を連想させる名称であり、火山の北側の久米は聖徳太子の弟である久米皇子が新羅遠征にあたり駐屯したとの言い伝えに由来し、発掘された甕棺から細形銅剣・細形銅戈などの青銅器や管玉などが出土している。志登など半島内各地の支石墓は朝鮮半島南部で見られる形式に同じである。これらから、古代に志摩地域が朝鮮半島と活発な交流があったと見てよい。その一方、九州大学移転で大きく変貌しつつある現代の市街地（旧前原市）が一望できる。

2　ホテル、飲食店、地場産品―田園のスローライフを楽しむ

1　ホテルなど

糸島市内のＪＲ筑前前原駅の周辺にビジネスホテルがある。芥屋の大門を抱える観光地芥屋地区に従来からの旅館がある。また、二丈地域には旅館に加え、温泉センター（きららの湯、まむし温泉）がある。旅館のほとんどは割烹旅館であり、地元で採れた新鮮な鮮魚や活魚、とれたての野菜を食べさせるところが多い。一部に自然を生かしたキャンプ場やログハウスもある。

2　農産品の産地直販店など

福博地区と同様に道の駅はないが、ＪＡ糸島などによる産直物産店があり、朝市、夕市が開かれている。たとえば、伊都国歴史博物館に隣接して野菜の産地直販店「ファームパーク伊都国」が、平原遺跡の国道２０２号よりに同様の施設「伊都菜彩」がある。また志摩歴史資料館の近くに新鮮魚介類の「志摩の四季」が、福井白山神社近くに「福ふくの里」がある。要するに、史跡を巡りながら、そのついでに立ち寄り、地元でとれた新鮮な野菜や果物、魚、花、田舎の素朴なお菓子などを入手することができ、土産物に事欠かない。

3　かき小屋と農村レストラン

最近、糸島半島の湾内では牡蠣の養殖が盛んで、それを生かした海辺の牡蠣小屋（焼きガキの提供、生牡蠣の直販）が流行っている。もともとは旧志摩町の岐志漁港に始まるが、今では糸島市内の福吉、深江、加布里、船越などの各漁港にも広がり、約３０の小屋がある。そのほとんどは糸島漁協の所属で、値段がおおむね統一され、１０月から４月頃までの期間だが行列ができるほどに客が押し寄せ、季節の風物詩である。最近はこれらの成功に刺激を受け、福岡市内の海浜や都心でも焼きガキを出す店が見られるようになった。

一方、半島内の集落に農家レストランがある。古民家やログハウス、庭に面したテラスなど、都会で味わえない雰囲気がある。旬の食材をうたい文句に口コミで人気を呼んでいるが、現在のところ１２軒ほどが点在している。

糸島半島の北端、二見ヶ浦付近はサーフィンが活発である。若者が多く集まることから、海辺のしゃれたレストランや喫茶店がいくつかみられる。どちらかといえば海辺の避暑地である。

大都市福岡と隣り合う地の利と、農業、漁業が盛んなことから、農水産物の直販店や朝市、夕市が随所で開かれている。取れたてを生かした農村レストランやかき小屋が積極的に展開され、巡れば思わぬところに思わぬ店が発見でき、そうした内容を紹介する雑誌も多い。それらを片手に風景街道を巡り、素朴な農村を味わうことは楽しいことこの上ない。ただ、これらの店や市は営業日や時間がバラバラで、季節限定も多い。このことから、詳しい事は観光協会などに問い合わせることである。

表４　糸島地区の情報案内

名　称	電　話	住　所	備　考
糸島観光協会	092-322-2098	前原中央1-1-10	
糸島ふるさとｶﾞｲﾄﾞ	092-321-0604	前原市西4丁目10-23	歴史、自然景色、魅力発見ｺｰｽ
伊都国歴史博物館	092-322-7083	井原916	ボランティアによる館内ガイド
糸島市ｼﾃｨｾｰﾙｽ課	092-332-2079	前原西1丁目1-1	
糸島魅力みつけ隊	問合せは糸島市NPO・ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ（こらぼ糸島）　092-324-9181		

3　祭り、情報案内―五穀豊穣を祈る「神楽」舞など

糸島地区では四季折々に祭りが催され、神楽、祇園祭、綱引き、流鏑馬、鬼すべと、その多くは五穀豊穣や大漁、家内安全、無病息災を祈願するもので、典型的な農、漁村の祭りである。

変わったところで、もち押し（鏡餅を奪い合う厄除け行事、桜井神社）、目かくし女相撲（松末五郎稲荷神社）、桜井二見ヶ浦大注連縄（おおしめなわ）掛け、百々手祭り（山盛りご飯を食べる祭り、淀川天神社）などがある。福岡都市圏内にあって、公共交通を含め交通の便がよく、１時間もしないところで、人と人のきずなを繋ぐさまざまな祭りが催されている。それらひとつ一つを巡ることは、農漁村集落型風景街道の風物詩を堪能することである。あるいは最近、旧志摩町方面への都会からの移住が話題になることも多いが、祭りはそうした田舎暮らしの意味を理解する契機にもなる。

農、漁村祭りで代表的なものは神社の神楽で、吉田、井田原、福井、高祖神社がある。それらのうち、吉田、井田原、福井の3社は二丈福井の神楽師が舞手の里神楽である。かつて農村の各地で見られた祭

りだが、今では舞手が少なくなり大変貴重なものである。毎年4月に吉田神社（糸島市志摩吉田169
6）、井田原神社（糸島市志摩井田原1）で五穀豊穣等を祈願し舞われている。福井
白山神社（糸島市二丈福井4908．電話092-326-5916）では、5月第
2日曜日と大晦日（夜神楽）の2回奉納されている。

一方、高祖神楽（糸島市高祖1578．092-372-7133）は前者と性格が異なる。戦国時代、高祖城主原田筑前守種親が京都守護に当たった際に京の能神楽を持ち帰り伝えたものである。五百年以上の歴史を持ち、毎年4月26日と10月25日（夜神楽）の2回高祖神社の神楽殿で舞われている。また、写真㊹にみるように、本殿前の階段状の石垣が見物席となり、その前に神楽殿がある珍しいつくりである。

糸島の観光や祭り案内は旅館などで入手できるが、市役所のシティセールス課や糸島観光協会に問い合わせるとよい。

五　大陸と関わった東松浦地区を巡る

1　城下町唐津と名護屋の陣跡を巡る

1　城下町唐津のまちを散策する

唐津は唐（唐、韓など大陸の国）との交流の津（港）の意味をもち、1368年の古文書に記載がある。その唐津を代表するものは、唐津城、唐津焼および「唐津くんち」祭りの3者である。

唐津城から唐津駅まで約2㎞であるから、歩くだけなら30分程度の範囲内にこれらがある（図11）。したがって、江戸時代、明治・大正時代の歴史遺産をベースにしたまち巡りができる。ガイドの案内（表6）もあり、かつての唐津のまちの栄華が堪能できよう。

唐津城の前に広い駐車場がある。そこに車を止めてまち歩きを始めれば、まずは唐津城㉓に上り、天守閣から360度のパノラマ㊺を楽しむことができる。また、5月初旬なら満開の藤の花がまた目の保養となる。

下に降りて唐津城の周囲を巡ると、北城内児童公園の時の太鼓（からくり時計）、旧高取邸（炭鉱主・高取伊好の旧宅で、明治時代の和風建築）、青木繁の作品が展示されている河村美術館、西の門館（各遺跡からの出土品の収蔵展示館）があり、東城内、北城内を巡ればいまなお残る城下町「唐津」の風情を楽しむことができる。

その後、街路の反対側に渡り南へ少し歩けば、「唐津くんち」の曳山を格納し飾る曳山展示場㊽、住吉三神を祀る唐津神社（奈良時代の創建）、旧唐津藩藩校中門㊼がある。これらを訪れた後に駅方向へと歩きながら、近松門左衛門にゆかりがある近松寺や、三の丸辰巳櫓の復元、旧唐津銀行などを見物し、商店街をのぞき見しながら進むと、自然に唐津駅にたどり着く。旧唐津銀行㊻-1は、東京駅や日銀本店を設計した辰野金吾（唐津出身）が監修し、弟子の田中実が設計した明治の洋風建築である。

㊻-1 旧唐津銀行

㊻-2　旧三菱合資会社唐津支店本館（唐津市海岸通）

駅のすぐ横は唐津市のふるさと会館アルピノ（唐津焼総合展示即売場）。さまざまな窯元の唐津焼が見られ、気に入れば買うこともできる。唐津観光協会作成の窯元マップによれば、窯元は唐津市内だけでも70に及び、その中でまち歩きのついでとなれば、JR唐津駅から南側の徒歩5～10分のところに唐津焼の中里太郎右衛門陶房や中野窯のギャラリーがあり、見学できる。

また、時間に余裕があるならば、西唐津方向に向かい、わが国で最も古いといわれる水稲耕作の菜畑遺跡を見学するとよい。あるいは、かつて石炭の積出港として栄えた唐津港に旧三菱合資会社唐津支店本館㊻-2（1908年）がある。明治時代の洋風建築物（県重要文化財）であり、独特の趣がある。

2　夢のあとの名護屋城・陣跡と呼子周辺を訪ねる

名護屋城はもともと松浦党の旗頭・波多氏一族の名護屋氏の居城があったところである。そこに秀吉は標高90mの梯郭式平山城を築城し、五重七階の望楼を築いた。また、全国から160の大名が集まり、うち130の陣跡が確認されている。その中で23か所が国指定の特別史跡だが、これら全体の配置は名護屋城博物館に全体模型㉙があり、それで一目瞭然である。

ところで、朝鮮などとの戦いは、過去に白村江の戦いや、元寇の役があった。それらについての秀吉の朝鮮出兵である。秀吉がどうしてこうした戦いを思い立ったのかは分からない。もともとは明征伐をめざし、その協力と服従を李氏朝鮮に拒絶されてのことによるとも伝えられている。地図（図7）を片手に、垣間見える玄界灘を眺望し、城跡や陣跡を巡り、秀吉の思いを想像するとよい。

名護屋城周辺では、呼子の朝市、展望公園からの眺めが素晴らしい加部島、波戸岬および海中展望台があり、秀吉も見たであろう玄界灘の島々や壱岐、対馬を望みながらのドライブとなる。その際、呼子大橋（斜張橋）㉘、名護屋大橋（PCラーメン桁橋）、外津（ほかわづ）大橋（コンクリートアーチ橋）といった長大橋を渡るが、湾を眺めての爽快な気分に浸ることができる。

国道382号は、いわゆる海上国道である。九州本土最北端の町、呼子、鎮西から壱岐、対馬へとつながり、そこに朝鮮半島との交流の道があったことに思いをはせ訪れることである。

2　祭り―漆塗り曳山の「唐津くんち」

唐津地区の祭りは神社の祭礼が多く、本来は里祭りである(表5)。しかし、代表的な唐津くんちや呼子の大綱引きなどはまちを挙げての祭りといってよい。

「唐津くんち」は、16世紀終わり頃から続く唐津神社の神祭であり、11月2～4日に催される。最大の呼物は、なんといっても14台の豪華な曳山行列である。曳山の獅子頭や魚、武将の兜㊽など（県指定重要有形民俗文化財）は見事な漆塗り工芸品であり、和紙をいく枚も塗り重ねたものである。また、祭りそのものがUNESCOの世界無形文化遺産である。宵曳山、御旅所神幸、町廻りと祭りは3日間にわたるが、最大の見ものはなんといっても中日の御旅所神幸である。「エンヤ、エンヤ」の掛け声とともに、御旅所（西ノ浜の明神台）へ、台車が砂浜にのめり込みながらの曳込み、曳出しがあり、それを見物するために、県内外から市人口をはるかに上回る多くの観客が押し寄せている。

呼子の大綱引きも国指定無形重要民俗文化財である。文禄・慶長の役で、兵士鼓舞のため、加藤清正と福島正則の陣営が東西に分かれ、軍船のとも綱で綱引したのが始まりといわれている。三神社前(唐津市呼子町呼子3143)で、呼子の町民を浜組(サキカタ)と岡組(ウラカタ)に分け、岡組が勝てば豊作、浜組が勝てば大漁との願をかけて行われる。観客も参加でき、みんなで楽しむ祭りである。

加えれば、玄海町外津の金比羅大祭がある。海上の安全や大漁祈願の祭りである。淀姫神社で神事の後、宝船と神輿が海岸を練り歩く。また、神輿を載せた漁船とお供の船がパレードする光景は勇ましく、見応えがある。

3　ふるさとの旅館・ホテル、地場産品、情報案内

1　ホテル、旅館

唐津地区では、虹ノ松原や唐津城がある旧唐津市と、松浦半島の北端、七つ釜や名護屋城跡、波戸岬がある旧呼子町・鎮西町に多くの観光客が訪れる。このため、ホテルや旅館もこれらの地域に多い。特に、唐津市の中心市街地では、虹ノ松原近くに大規模ホテルが複数立地し、それらに続いて城内の区域に高級な旅館がある。

玄海町も思いのほか多くの旅館があるが、その殆どは玄海エネルギーパーク、原子力発電所近くの今村地区に集中している。

2　飲食店、地場産品

唐津地区は野菜、魚、肉など豊富な食材に恵まれているが、なかでもイカが有名である。「イカの生き

図11　唐津の城とまち歩き

㊺　唐津城天守閣から見た鏡山方面

㊽　展示場に飾られている曳山(唐津市西城内)

表6　唐津地区の情報案

名　称	電　話	
唐津市観光課	0955-72-9127	西城内1番
（一社）唐津観光協会	0955-74-3355	新興町293
唐津駅観光案内所	0955-72-4963	新興町293
呼子観光案内所	0955-82-3426	呼子町呼子4185-15
ふるさと会館アルピノ	0955-78-5155	新興町2881-1
玄海町地域振興会	0955-51-3007	玄海町諸浦338-1
玄海町産業振興課	0955-52-2199	玄海町諸浦348
道の駅・桃山天下市	0955-51-1051	鎮西町名護屋
道の駅・大玄	0955-52-6348	玄海町今村4853-1
唐津ボランティアガイド	0955-72-5141	大名小路1-54商工会議所内
よかばいガイドの会	0955-74-3611	唐津観光協会ATA事業所
名護屋城跡観光案内所	0955-82-5774	鎮西町名護屋1931-3

					月		
	呼子大綱引き	呼子町呼子・三崎沖	「桃山天下市」		6月	呼子支所産業課	0955-53-7165
桃山天下市　（国道２０４号）				0955-51-1051	8月	唐津観光協会観光課	0955-53-7155
唐津市	浜崎祇園祭	浜玉町浜崎・諏			10月	唐津観光協会浜玉支所	0955-56-6551
	鳥巣浮立	浜玉町鳥巣・鳥巣神社				道前支所産業課	0955-53-7145
	肥前町みち	肥前町納所・住吉神社境内			9月	肥前支所産業課	0955-53-7145
	唐津くんち	唐津神社を出発し、市内巡幸			11月	唐津観光協会	0955-74-3365
	呼子大謝肉祭	呼子町呼子・淀姫神社周辺			1月	玄海町産業振興課	0955-52-2199
	並松祭	玄海町外津・淀姫神社周辺			10月	玄海町産業振興課	0955-52-2199
	三島神社秋の例祭	玄海町石田					

○提供エリア及び提供時間
情報提供内容
[道路情報]
[観光情報]
[医療情報]
[他の「道の駅」の情報]
[その他情報]

エンヤ・エンヤの曳山

問合せ先

災害情報を地図上で表示して提供
宿泊施設情報を案内人、チラシで提供
医療機関の名称、電話番号を掲示板で提供
施設の内容をチラシで提供
なし

造り」は殆どの飲食店、レストラン、旅館などで食することができる。また、イカしゅうまい、イカの一夜干し、クジラ軟骨の松浦漬も呼子名産、唐津特産である。お菓子では松露饅頭、松原おこし、けえらん（米を蒸した生地で餡をまいたもの）が有名である。

一方、半島の上場台地（丘陵）では、さまざまに工夫を凝らした農業や畜産が盛んである。その中で、佐賀牛、伊万里牛は全国ブランドであり、いずれも高級牛として有名である。

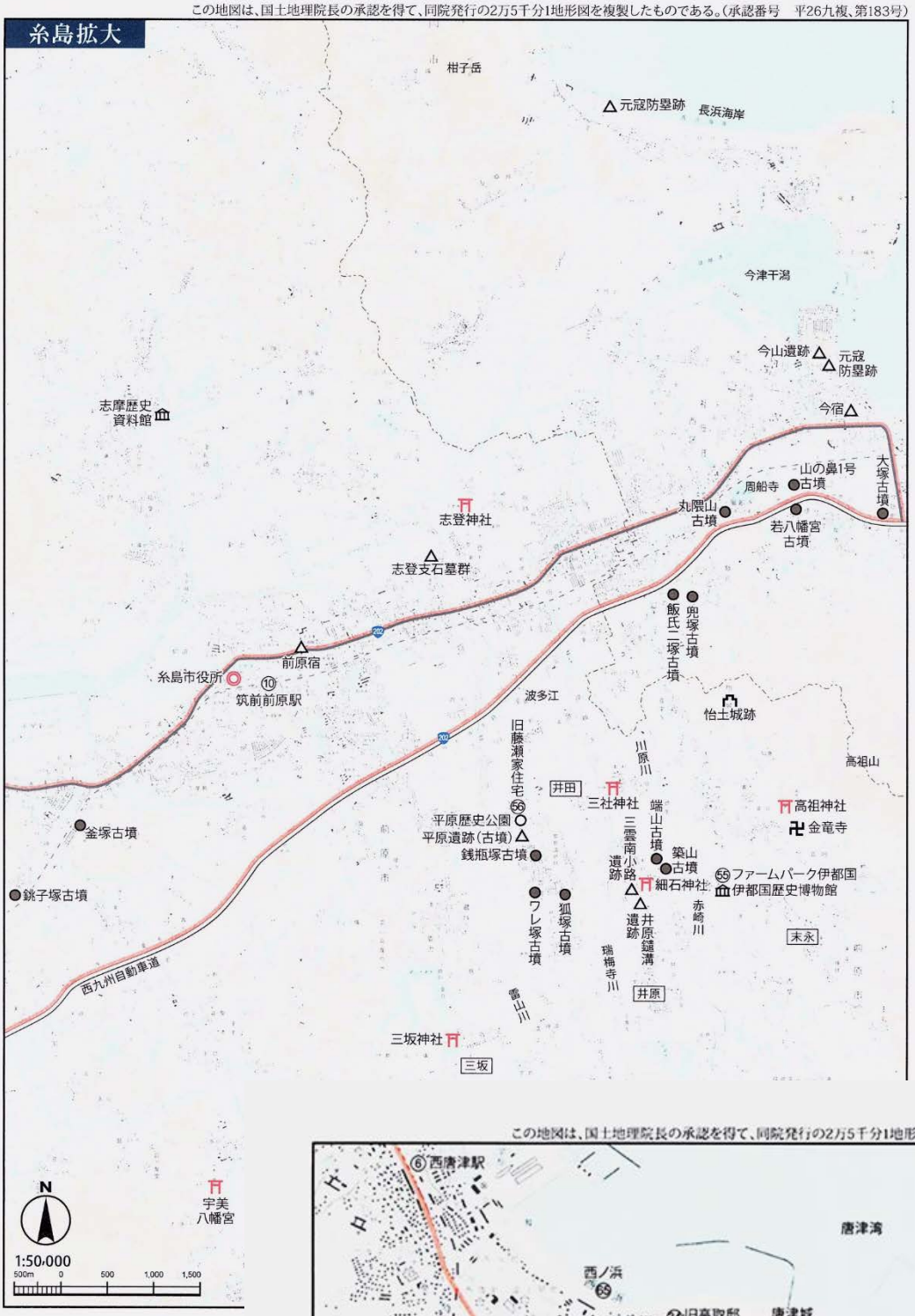
唐津市街地の飲食店は、南北を唐津駅と市役所、東西を町田川と唐津駅北口の駅前通りとする区域に集中。また、南北を結び呉服町、中町、京町の一帯に商店街がある。

産地直売所として水産物を扱うところが多いのも唐津地区の特色である。工芸品では唐津焼が全国的に有名。唐津地区に限らず、かつての肥前国、佐賀県、長崎県の広い範囲の窯でつくられる陶器を唐津焼というが、そもそもは李氏朝鮮から伝統的技法が伝えられ、今に至るものである。作品は、素朴で渋みがあることに特色がある。

唐津地区の情報案内所を表6に示す。また、「桃山天下市」（表7）は、玄界灘風景街道区域内で唯一つの道の駅である。その中に情報案内所がある。加えて、唐津市内のまち歩きや名護屋城跡についてはボランティアガイドの活動があり、安い料金または無料で依頼でき、便利である。

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号　平26九複、第183号)

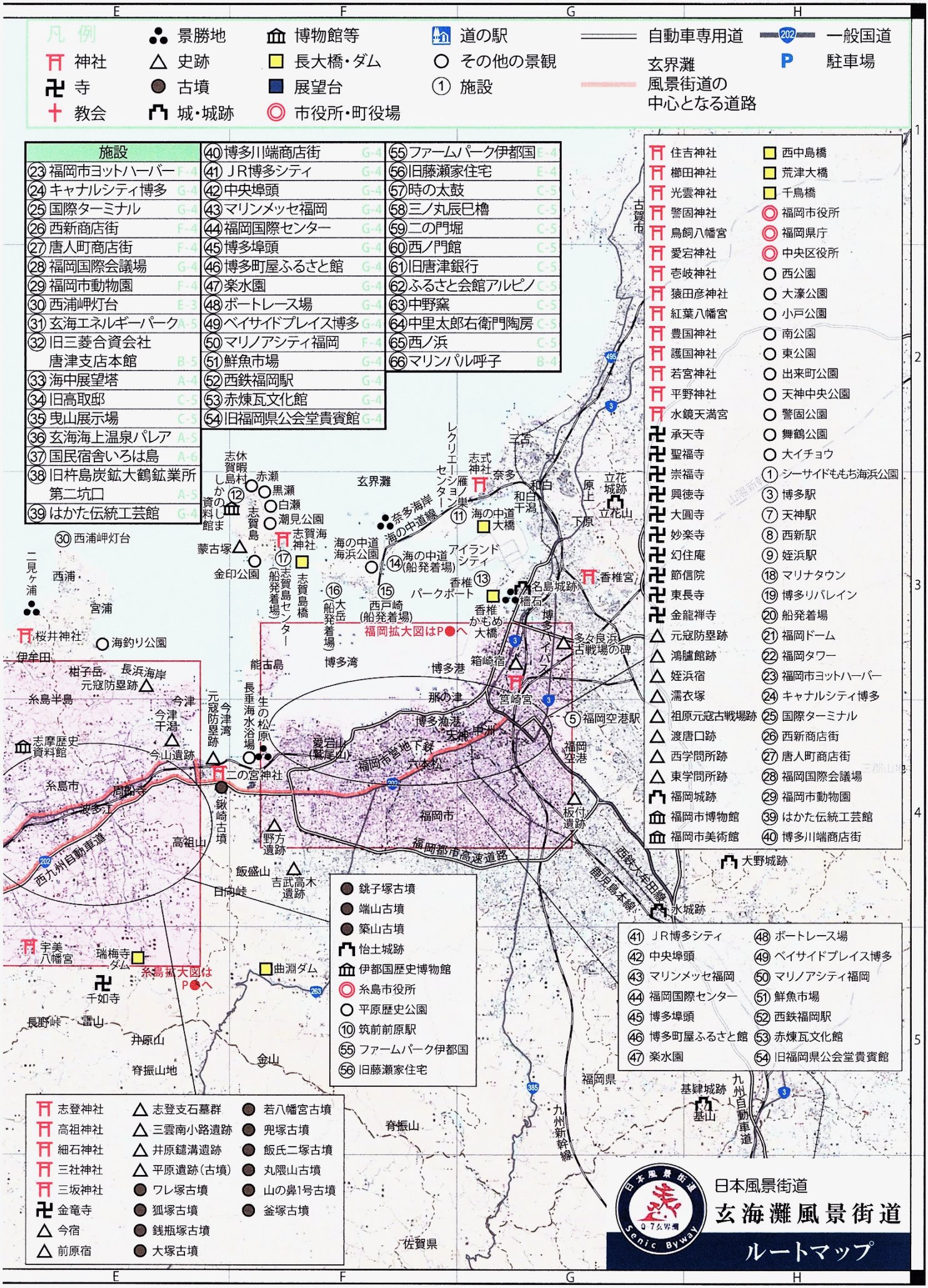
糸島拡大



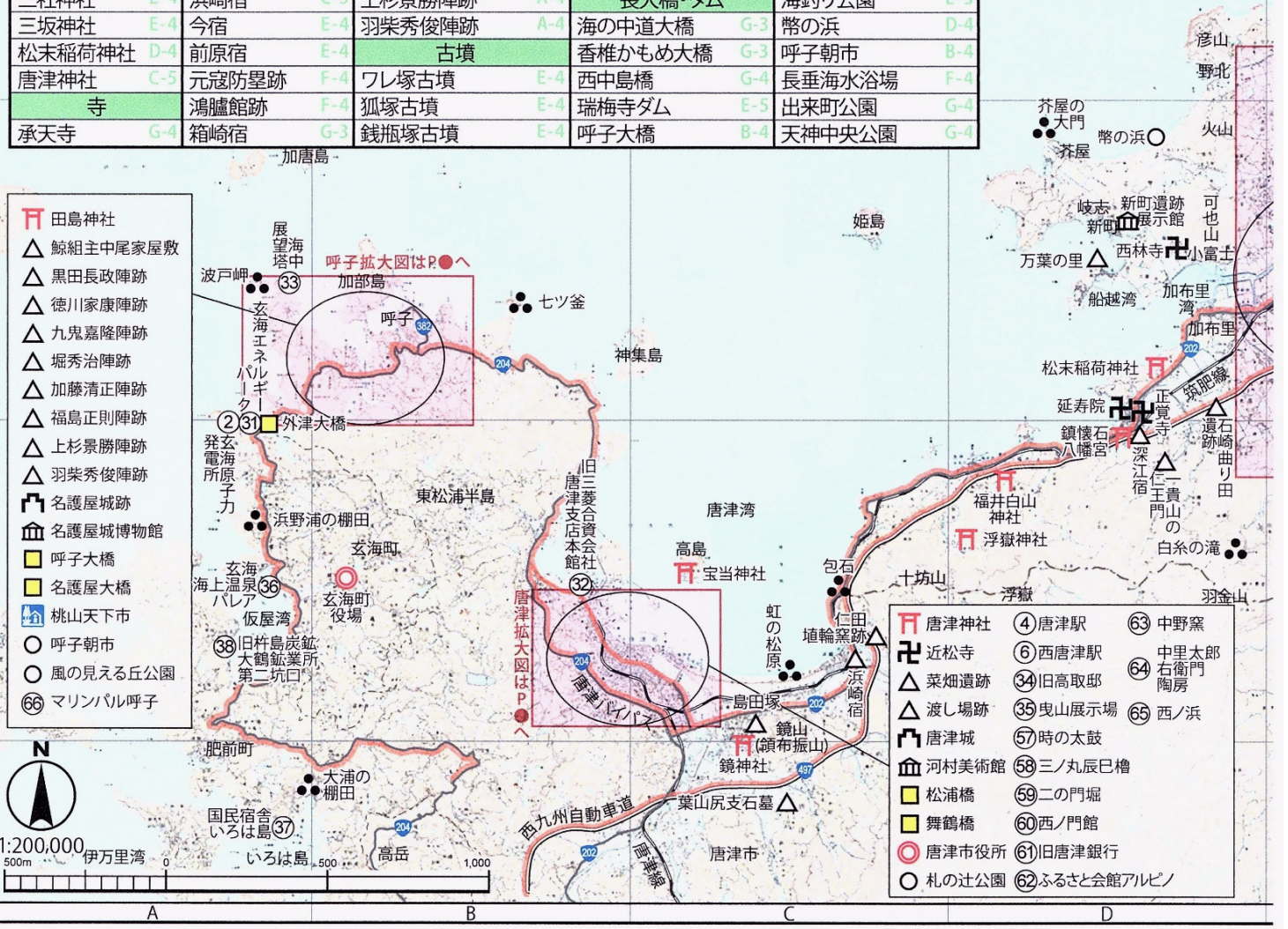
この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号　平26九複、第183号)

唐津拡大

この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の5万分1地形図を複製したものである。(承認番号　平26九複、第183号)



神社		寺		史跡		古墳		長大橋・ダム		その他の景観	
香椎宮	G-3	聖福寺	G-4	姪浜宿	F-4	鍬崎古墳	E-4	名護屋大橋	B-4	警固公園	G-4
鎮懐石八幡宮	D-5	崇福寺	G-4	深江宿	D-5	大塚古墳	E-4	外津大橋	A-5	舞鶴公園	F-4
鏡神社	C-6	興徳寺	F-4	志登支石墓群	E-4	若八幡宮古墳	E-4	荒津大橋	F-4	大イチョウ	G-4
筥崎宮	G-3	大圓寺	F-4	蒙古塚	F-3	兜塚古墳	E-4	志賀島橋	F-3	札の辻公園	C-5
志賀海神社	F-3	正覚寺	D-4	多々良浜古戦場の碑	G-3	飯氏二塚古墳	E-4	千鳥橋	G-3	風の見える丘公園	B-4
志式神社	G-3	延寿院	D-4	濡衣塚	G-4	丸隈山古墳	E-4	曲淵ダム	F-5	施設	
住吉神社	G-4	西林寺	D-4	野方遺跡	F-4	山の鼻1号古墳	E-4	松浦橋	C-5	①シーサイドももち海浜公園	F-4
櫛田神社	G-4	千如寺	E-5	吉武高木遺跡	F-4	釜塚古墳	E-4	舞鶴橋	C-5	②玄海原子力発電所	A-5
光雲神社	F-4	妙楽寺	G-4	祖原元寇古戦場跡	F-4	銚子塚古墳	E-4	市役所・町役場		③博多駅	G-4
警固神社	G-4	幻住庵	G-4	三雲南小路遺跡	E-4	端山古墳	E-4	福岡市役所	G-4	④唐津駅	B-5
鳥飼八幡宮	F-4	節信院	G-4	今山遺跡	E-4	築山古墳	E-4	唐津市役所	C-5	⑤福岡空港駅	G-4
愛宕神社	F-4	東長寺	G-4	万葉の里	D-4	城・城跡		玄海町役場	B-5	⑥西唐津駅	B-5
壱岐神社	F-4	金龍禅寺	F-4	石崎曲り田遺跡	D-4	福岡城跡	F-4	糸島市役所	E-4	⑦天神駅	G-4
猿田彦神社	F-4	金竜寺	E-4	一貴山の仁王門	D-5	名護屋城跡	B-4	福岡県庁	G-4	⑧西新駅	F-4
紅葉八幡宮	F-4	近松寺	C-5	仁田埴輪窯跡	C-5	唐津城	C-5	中央区役所	G-4	⑨姪浜駅	F-4
田島神社	B-4	景勝地		島田塚	C-5	怡土城跡	E-4	道の駅		⑩筑前前原駅	E-4
二の宮神社	E-4	芥屋の大門	D-4	葉山尻支石墓	C-6	大野城跡	H-4	桃山天下市	B-4	⑪雁ノ巣レクリエーションセンター	G-3
桜井神社	E-3	七ツ釜	B-4	渡唐口跡	G-4	基肄城跡	H-5	その他の景観		⑫休暇村志賀島	F-3
福井白山神社	D-5	櫃石	G-3	西学問所跡	F-4	水城跡	G-4	海の中道海浜公園	F-3	⑬香椎パークポート	G-3
志登神社	E-4	生の松原	F-4	東学問所跡	F-4	名島城跡	G-3	金印公園	F-3	⑭海の中道(船発着場)	F-3
高祖神社	E-4	虹の松原	C-5	井原鑓溝遺跡	E-4	立花城跡	G-3	平原歴史公園	E-4	⑮西戸崎(船発着場)	F-3
宇美八幡宮	E-5	二見ヶ浦	E-3	平原遺跡(古墳)	E-4	博物館等		赤瀬	F-3	⑯大岳(船発着場)	F-3
浮嶽神社	D-5	白糸の滝	D-5	渡し場跡	C-5	福岡市博物館	F-4	黒瀬	F-3	⑰志賀島センター(船発着場)	F-3
宝当神社	C-5	大浦の棚田	A-6	鯨組主中尾家屋敷	B-4	伊都国歴史博物館	E-4	白瀬	F-3	⑱マリナタウン	F-4
豊国神社	G-4	包石	C-5	黒田長政陣跡	B-4	名護屋城博物館	B-4	潮見公園	F-3	⑲博多リバレイン	G-4
護国神社	F-4	波戸岬	A-4	徳川家康陣跡	B-4	しかのしま資料館	F-3	西公園	F-4	⑳船発着場	G-4
若宮神社	G-4	浜野浦の棚田	A-5	九鬼嘉隆陣跡	A-4	志摩歴史資料館	E-4	大濠公園	F-4	㉑福岡ドーム	F-4
平野神社	F-4	史跡		堀秀治陣跡	A-4	新町遺跡展示館	D-4	小戸公園	F-4	㉒福岡タワー	F-4
水鏡天満宮	G-4	菜畑遺跡	C-5	加藤清正陣跡	A-4	福岡市美術館	F-4	南公園	F-4		
細石神社	E-4	板付遺跡	G-4	福島正則陣跡	A-4	河村美術館	C-5	東公園	G-4		
三社神社	E-4	浜崎宿	C-5	上杉景勝陣跡	A-4	長大橋・ダム		海釣り公園	E-3		
三坂神社	E-4	今宿	E-4	羽柴秀俊陣跡	A-4	海の中道大橋	G-3	幣の浜	D-4		
松末稲荷神社	D-4	前原宿	E-4	古墳		香椎かもめ大橋	G-3	呼子朝市	B-4		
唐津神社	C-5	元寇防塁跡	F-4	ワレ塚古墳	E-4	西中島橋	G-4	長垂海水浴場	F-4		
寺		鴻臚館跡	F-4	狐塚古墳	E-4	瑞梅寺ダム	E-5	出来町公園	G-4		
承天寺	G-4	箱崎宿	G-3	銭瓶塚古墳	E-4	呼子大橋	B-4	天神中央公園	G-4		



この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分1地形図を複製したものである。(承認番号　平26九複、第183号)

福岡拡大

凡例
景勝地
博物館等
道の駅
自動車専用道
一般国道
神社
史跡
長大橋・ダム
その他の景観
玄界灘
駐車場
寺
古墳
展望台
施設
風景街道の
中心となる道路
教会
城・城跡
市役所・町役場
500m
0
500
1,000
1,500
N
1:35,000
能古島
博多湾
西区
中央区
早良区
シーサイドももち
海浜公園
①
福岡ドーム
㉑
大圓寺
㉒
福岡タワー
西学問所跡
唐人町商店街㉗
福岡市ヨットハーバー㉓
小戸公園
元寇防塁跡
㊿マリノアシティ福岡
⑱マリナタウン
福岡市
博物館
平野神社
鳥飼八幡宮
金龍禅寺
愛宕神社
愛宕山
(鷲尾山)
興徳寺
姪浜宿
⑨姪浜駅
生の松原
元寇
防塁跡
元寇
防塁跡
⑧西新駅
㉖西新商店街
猿田彦神社
壱岐神社
室見川
紅葉八幡宮
祖原元寇古戦場跡
西九州自動車道
福岡市
野方
遺跡
福岡都市高速環状線

九州風景街道ガイドブック

人のくに、美のくに九州　Q－7　玄界灘風景街道

令和２ 年７月１日　２版

ルートガイド編纂委員会：樗木武、堤昌文、玉川孝道、吉竹哲信、桝谷秀秋
玄界灘風景街道担当（文責）：樗木　武

協　力　**玄界灘風景街道推進協議会**
唐津市役所企画経営部企画政策課内
Tel　0955-72-9115

発　行　**九州風景街道推進会議**
事務局（九州地方整備局 道路管理課内）

©
禁無断転載